

平成 30 年度決算について

交 通 局

(自動車事業—決算第 17 号議案, 高速鉄道事業—決算第 18 号議案)

I. 事業報告	1
II. 決算の概要について	3
III. 平成 30 年度 主要事業について	
1. 新規事業	15
2. 継続事業	
①. 安全で信頼される公共交通	15
②. まちづくりや地域社会への貢献	22
③. 「市民の足」であり続けるための経営基盤強化	24
IV. 「神戸市営交通事業 経営計画 2020」の取組状況	27
V. 参考資料	36
VI. 平成 30 年度決算に基づく資金不足比率の報告について	46

I 事業報告

自動車事業

1 概 況

本市自動車事業は、昭和5年9月の事業開始以来、市民の日常生活や経済活動に必要な生活基盤としての役割を担い、その整備・充実に努めてきた。しかしながら、社会経済環境の変化に伴い、乗客数は減少傾向をたどり、現在においても厳しい財政状況となっている。

一方、急速な少子・超高齢化の進行への対応や、低炭素社会実現に向けた取り組みが求められており、公共交通機関の果たす役割はますます大きなものとなっている。

神戸市交通局では、公営交通としての役割と企業としての経済性の両立を果たすため、これまでも、厳しい経営環境、財政状況の中、「市民の足」を確保し、次世代に求められる「市営交通サービス」の提供を目指して、「神戸市交通事業の経営改革プラン《レボリューション2004》」（平成16年度～18年度）、「神戸市営交通 ステップ・アップ プラン」（平成19年度～22年度）、「神戸市営交通事業 経営計画2015」（平成23年度～27年度）による経営改革を進めてきた。

平成30年度は、平成28年3月に策定した「神戸市営交通事業 経営計画2020」（平成28年度～令和2年度）に基づき、施策の実現に全力で取り組み、また徹底した経営改善を推し進め、安全で信頼できるサービスの提供とこれを支えるしっかりとした経営基盤の確立に取り組んだ。

また、平成30年度より、局採用職員の給与水準を5%カットするとともに、新たに路線の一部委託の拡大を行うなど経費削減に組み込み、高速鉄道事業での人件費カットにより生み出された財源により自動車事業会計に資金手当てを行ったものの、今後、多くのバス車両が更新時期を迎えることなどから、厳しい経営環境、財政状況にある。これからも多くのお客様に信頼され、安心、満足してご利用いただける市バスであり続けるため、さらなる乗客増対策や経営の効率化に取り組むことにより、財政の健全化に努め、将来にわたり「市民の足」である市営交通としての役割を積極的に果たし、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていく。

ア 運輸成績

平成30年度の乗車人員は6,688万人（1日平均18万人）、乗車料収入は96億9,407万円（1日平均2,656万円）となった。

イ 主要事業

平成30年度は、高齢化が進展する中でも、安心してより快適に市バスをご利用していただけるよう、バス停におけるベンチ・屋根の設置を進めるとともに、厳しい財政状況の中、民間バス事業者等との協働を進めることで、市バスの運行経費を削減しつつ、できる限りバス路線の維持・充実に努め、「市民の足」の確保に努めた。

ウ 経理状況

収益的収入は乗車料収入の落ち込み等の影響により105億6,067万円となり、平成29年度に比べ1億3,461万円（1.3%）の減少となった。一方、支出の総額は105億8,742万円となり、平成29年度に比べて2億4,251万円（2.2%）の減少となった。

この結果、当年度純損失は2,675万円となり、当年度の未処分利益剰余金は3億6,372万円となった。

高速鉄道事業

1 概 況

本市高速鉄道事業は、昭和52年3月に新長田～名谷間で営業を開始し、昭和62年3月の西神・山手線全線開通により、新神戸～西神中央間22.7キロメートルで営業を行っている。昭和63年4月には、北神急行電鉄（新神戸～谷上間7.5キロメートル）との相互直通運転により、西北神地域と都心部を結ぶ“みどりのUライン”が完成した。また、平成13年7月には、新長田～三宮・花時計前間7.9キロメートルの海岸線が開業し、両線合わせて30.6キロメートルで営業を行っている。

財政状況について、地下鉄事業全体の経常損益としては、平成25年度から6年連続で、黒字を計上した。線別で見ると、西神・山手線は、平成15年度以降、継続して純利益を計上しているが、海岸線は、依然として、減価償却費・企業債利子といった資本費負担が大きく、純損失を計上し、多額の累積欠損金・累積資金不足を抱えている。

一方、急速な高齢化の進行への対応や、低炭素社会実現に向けた取り組みが求められており、公共交通機関の果たす役割はますます大きなものとなっている。

神戸市交通局では、公営交通としての役割と企業としての経済性の両方を果たすために、これまでも、厳しい経営環境、財政状況の中、「市民の足」である市営交通を維持・存続させるため、「神戸市交通事業の経営改革プラン《レボリューション2004》」（平成16年度～18年度）、「神戸市営交通ステップ・アッププラン」（平成19年度～22年度）、「神戸市営交通事業経営計画2015」（平成23年度～27年度）による経営改革を進めてきた。

平成28年度からは、「神戸市営交通事業経営計画2020」（平成28年度～32年度）により、「改善型地方公営企業」としてさらなる経営改善とお客サービス向上に取り組んでおり、平成30年度は、累積欠損金の縮減と海岸線ランニング収支の均衡に向けた収支改善という財政目標について単年度目標額を達成することができた。しかしながら、依然として多額の累積欠損金を抱えていることに加え、今後車両・設備などの、大規模更新により、多額の修繕費、設備更新費が見込まれるなど、厳しい経営環境、財政状況にあることには変わりはない。

「神戸市営交通事業経営計画2020」の下、さらなる乗客増対策や経営の効率化に取り組むことにより、財政の健全化に努め、将来にわたり「市民の足」である市営交通としての役割を積極的に果たし、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていく。

ア 運輸成績

平成30年度の西神・山手線の乗車人員は9,613万人（1日平均26.3万人）、乗車料収入は165億5,114万円（1日平均4,534万円）となった。また、海岸線の乗車人員は1,834万人（1日平均5万人）、乗車料収入は23億3,433万円（1日平均640万円）となった。

その結果、地下鉄全線では、乗車人員は1億1,447万人（1日平均31.3万人）、乗車料収入は188億8,547万円（1日平均5,174万円）となった。

イ 主要事業

海岸線沿線の活性化や沿線地域への若年世代・子育て世帯の流入による乗客増を目的とした地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験を継続したほか、乗客増対策として「おもちゃ箱列車」などの自主イベントや関係機関とタイアップした各種事業を展開した。

また、西神・山手線において、バリアフリー対応・快適性向上、省エネ性能向上を重視した新造車両を2編成導入するとともに、南海トラフ地震などの大規模災害に備えるため、名谷車両基地の耐震改修工事の実施、海岸線では海岸線防災設備監視システムの更新に着手した。

ウ 経理状況

西神・山手線では、60億2,919万円の純利益を計上しているが、海岸線では、37億7,194万円の純損失を計上している。この結果、地下鉄全線の純利益は22億5,725万円となり、平成30年度末の累積欠損金は747億1,289万円となった。

II 決算の概要について

自動車事業

(単位:百万円、税抜)

		30年度決算	29年度決算	増△減	
収益的 収支	収入 (1日あたり乗客数)	10,561 (183,230人)	10,695 (186,763人)	△ 134 (△ 3,533人)	1日あたり乗客数の減 △1.89%
	支出	10,587	10,830	△ 243	
経常損益		△ 27	△ 209	182	
純損益		△ 27	△ 135	108	
累積損益		363	390	△ 27	
累積資金過不足		△ 1,824	△ 1,714	△ 110	
累積資金不足比率		18.3%	16.8%	1.5%	

高速鉄道事業

		30年度決算	29年度決算	増△減		
全線	収益的 収支	収入 (1日あたり乗客数)	24,637 (313,617人)	25,166 (312,219人)	△ 529 (1,398人)	1日あたり乗客数の増 +0.45%
	支出	22,380	23,484	△ 1,104		
経常損益		2,257	1,682	575		
純損益		2,257	1,682	575		
累積損益		△ 74,713	△ 76,970	2,257		
累積資金過不足		4,654	1,729	2,925		
西神・ 山手線	収益的 収支	収入 (1日あたり乗客数)	19,577 (263,381人)	20,064 (263,576人)	△ 487 (△ 195人)	1日あたり乗客数の増 △0.07%
	支出	13,548	14,098	△ 550		
経常損益		6,029	5,966	63		
純損益		6,029	5,966	63		
累積損益		25,399	19,370	6,029		
累積資金過不足		43,168	35,287	7,881		
海岸線	収益的 収支	収入 (1日あたり乗客数)	5,060 (50,236人)	5,102 (48,643人)	△ 42 (1,593人)	1日あたり乗客数の増 +3.27%
	支出	8,832	9,386	△ 554		
経常損益		△ 3,772	△ 4,284	512		
純損益		△ 3,772	△ 4,284	512		
累積損益		△ 100,112	△ 96,340	△ 3,772		
累積資金過不足		△ 38,514	△ 33,558	△ 4,956		

自動車事業会計

1. 業務量

業務の種別	30年度	29年度	実績増減		
	業務実績 A	業務実績 B	A-B(C)	率 C/B	
営業キロ程 (km)	374.80	369.59	5.21	1.4	
在籍車両数 (両)	514	515	△1	△0.2	
運転車両数 (両)	160,514	160,019	495	0.3	
運転走行キロ (千km)	17,261	17,274	△13	△0.1	
乗車人員 (千人)	66,879	68,168	△1,289	△1.9	
乗車料収入 (千円)	9,694,072	9,865,818	△171,746	△1.7	
営業日数 (日)	365	365	—	—	
一 日 平 均	運転車両数 (両)	440	438	2	0.5
	運転走行キロ (km)	47,290	47,326	△36	△0.1
	乗車人員 (人)	183,230	186,763	△3,533	△1.9
	乗車料収入 (千円)	26,559	27,030	△471	△1.7

※乗車人員・乗車料収入は敬老福祉パスを含む
 ※乗車料収入は税抜

<参考>

1. 敬老・福祉乗車等負担金

(単位:千円)

	27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度決算
敬老パス	2,138,494	2,112,288	2,121,255	2,122,648
敬老利用者負担額	798,139	779,473	800,679	814,078
敬老パス負担金	1,340,355	1,332,815	1,320,576	1,308,570
福祉パス等負担金	546,689	539,730	534,524	523,129
合計	2,685,183	2,652,018	2,655,779	2,645,777

2. 1日あたりの乗客数の推移

(単位:人)

	27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度決算
有料乗車	133,328	131,675	130,648	127,506
敬老パス	35,329	34,887	35,593	35,933
福祉パス等	20,907	20,693	20,522	19,791
合計	189,564	187,255	186,763	183,230

2. 経営成績

(単位:百万円、税抜)

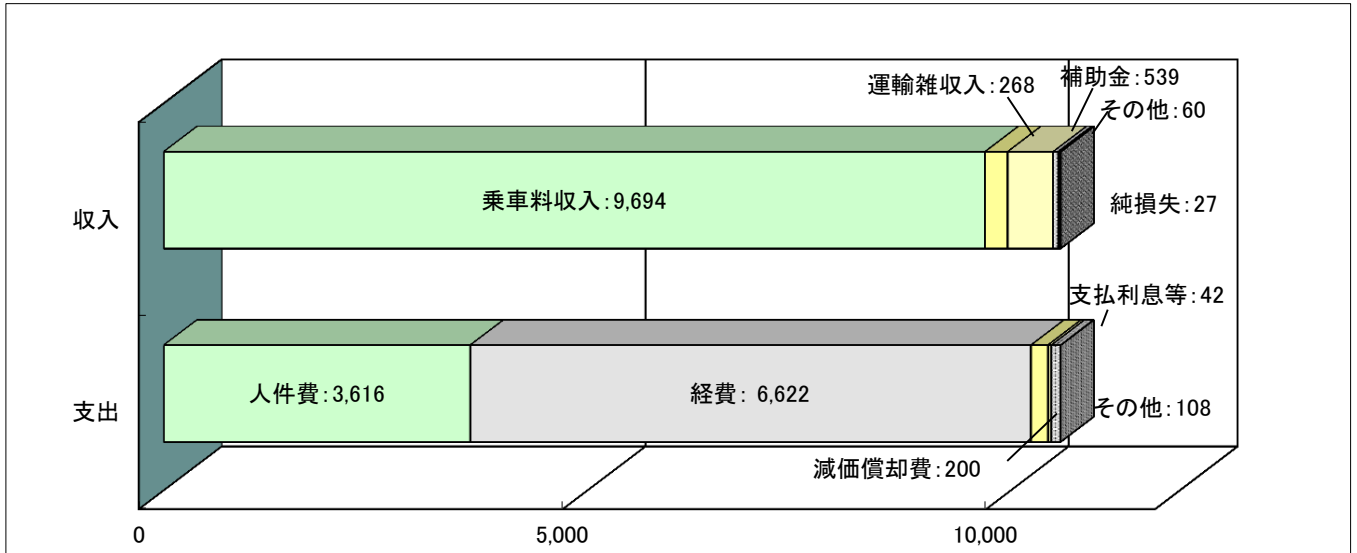
(単位:百万円、税抜)

区 分		30年度決算 a	29年度決算 b	比較増減 a - b	伸び率(%) (a-b)/b	主な増減理由		
収 益 的 的	収 入	営 業 収 益	9,962	10,146	△ 184	△1.8		
		運 輸 収 入	7,862	8,011	△ 149	△1.9		
		定期・定期外	7,048	7,210	△ 162	△2.2	定期外収入の減	
		敬老利用者負担	814	801	13	1.6		
		敬 老 福 祉 パ ス	1,832	1,856	△ 24	△1.3		
		敬老バス負担金	1,309	1,321	△ 12	△0.9		
		福祉バス等負担金	523	535	△ 12	△2.2		
	そ の 他	268	279	△ 11	△3.9			
	入	営 業 外 収 益	598	476	122	25.6		
		一般会計補助金	539	401	138	34.4	共済公的負担繰入金の増	
		長期前受金戻入	18	27	△ 9	△33.3		
		そ の 他	41	48	△ 7	△14.6		
		特 別 利 益	-	74	△ 74	皆減	H29:西神営業所用地一部売却	
	計	10,561	10,696	△ 136	△1.3			
	支 出	支 出	営 業 費 用	10,438	10,686	△ 248	△2.3	
			人 件 費	3,616	3,933	△ 317	△8.1	退職給付引当金等の減
			経 費	6,622	6,461	161	2.5	燃料費、修繕費の増
		出	減 価 償 却 費	200	292	△ 92	△31.5	減価償却の進行にともなう減
			営 業 外 費 用	149	144	5	3.5	
支払利息及び諸費			42	45	△ 3	△6.7		
そ の 他			107	99	8	8.1		
計	10,587	10,830	△ 243	△2.2				
経 常 損 益	△ 27	△ 209	182	87.1				
純 損 益	△ 27	△ 135	108	80.0				
累 積 損 益	364	390	△ 26	△6.7				
資 本 的	収 入	企 業 債	105	396	△ 291	△73.5	建設改良費の減	
		補 助 金	-	-	-	-		
		他 会 計 繰 入 金	177	330	△ 153	△46.4		
		財 産 収 入	-	199	△ 199	△100.0		
		そ の 他	1	1	-	-		
	計	283	926	△ 643	△ 69.4			
	支 出	建 設 改 良 費	143	401	△ 258	△64.3	建設改良費の減	
		企 業 債 償 還 金	255	399	△ 144	△36.1		
		退 職 手 当 償 還 金	-	-	-	皆減		
		資 本 費 平 準 化 償 還 金	53	53	-	-		
計		452	856	△ 405	△ 47.3			
収 支 差 引	△ 169	70	△ 239	341.4				
累 積 資 金 過 不 足	△ 1,824	△ 1,714	△ 110	△6.4				

*資本的収支は税込

<参考>

①経営状況 平成30年度決算



※ 乗車料収入には、敬老福祉パス負担金を含む

②職員数

(単位:人)

	31年度 予算	30年度 (A)	29年度 (B)	増△減 (A-B)
損益勘定	377	378	381	△ 3
事務	80	81	84	△ 3
技術	22	22	22	0
技士	16	16	16	0
運転士	259	259	259	0
合計	377	378	381	△ 3

④経営指標

	31年度 予算	30年度 (A)	29年度 (B)	増△減 (A-B)
営業係数	108	105	105	0

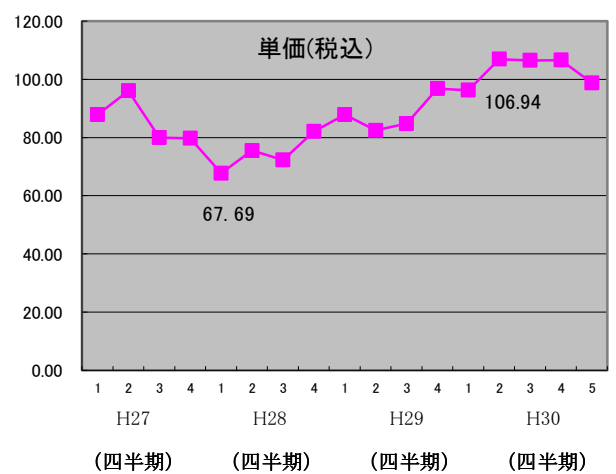
③企業債残高

(単位:百万円)

	31年度 予算	30年度 (A)	29年度 (B)	増△減 (A-B)
年度当初残高	2,512	2,715	2,771	△ 56
償還額	271	308	452	△ 144
借入額	920	105	396	△ 291
年度末残高	3,161	2,512	2,715	△ 203

⑤軽油価格

(円/ℓ、税込)



29年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
	87.83	82.43	84.80	96.78
30年度	第1四半期	7月	8月	9月～12月
	96.25	106.94	106.51	106.62
				第4四半期
				98.74

貸借対照表

自動車事業会計

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
固 定 資 産	15,621,161	固 定 負 債	5,736,587
自動車運送事業施設	34,475,590	企 業 債	2,240,655
減価償却累計額	△ 19,374,421	建設改良等の財源に充てる ための企業債	2,240,655
計	15,101,169	引 当 金	3,338,684
関 連 施 設	227,383	退職給付引当金	3,338,684
減価償却累計額	△ 170,581	そ の 他 固 定 負 債	157,248
計	56,802	流 動 負 債	3,673,744
建設仮勘定	436,355	一 時 借 入 金	900,000
投 資	26,835	企 業 債	270,709
流 動 資 産	1,579,203	建設改良等の財源に充てる ための企業債	270,709
現金預金	180,722	未 払 金	1,306,133
未 収 金	1,388,580	前 受 金	854,675
貯 蔵 品	5,375	預 り 金	20,994
前 払 費 用	4,526	引 当 金	242,934
		賞 与 引 当 金	204,221
		法定福利費引当金	38,713
		そ の 他 流 動 負 債	78,299
		繰 延 収 益	250,239
		長 期 前 受 金	2,563,676
		収 益 化 累 計 額	△ 2,313,437
		資 本 金	4,085,519
		自 己 資 本 金	4,085,519
		剰 余 金	3,454,275
		資 本 剰 余 金	3,090,553
		受 贈 財 産 評 価 額	955,810
		他 会 計 繰 入 金	2,134,743
		利 益 剰 余 金	363,722
		未 処 分 利 益 剰 余 金	363,722
合 計	17,200,364	合 計	17,200,364

高速鉄道事業会計

1. 業務量

(1) 西神・山手線

業務の種別		30年度 業務実績A	29年度 業務実績B	実績増減	
				A-B (C)	率 C/B
営業キロ程(km)		22.7	22.7	-	-
在籍車両数(両)		174	168	6	3.6
運転車両数(両)		60,048	59,586	462	0.8
運転走行キロ(千km)		16,753	16,787	△ 34	△ 0.2
乗車人員(千人)		96,134	96,205	△ 71	△ 0.1
乗車料収入(千円)		16,551,134	16,633,154	△ 82,020	△ 0.5
営業日数(日)		365	365	-	-
一 日 平 均	運転車両数(両)	165	163	2	1.2
	運転走行キロ(km)	45,898	45,992	△ 94	△ 0.2
	乗車人員(人)	263,381	263,576	△ 195	△ 0.1
	乗車料収入(千円)	45,346	45,570	△ 224	△ 0.5

(2) 海岸線

業務の種別		30年度 業務実績A	29年度 業務実績B	実績増減	
				A-B (C)	率 C/B
営業キロ程(km)		7.9	7.9	-	-
在籍車両数(両)		40	40	-	-
運転車両数(両)		11,324	11,208	116	1.0
運転走行キロ(千km)		2,682	2,674	8	0.3
乗車人員(千人)		18,336	17,755	581	3.3
乗車料収入(千円)		2,334,331	2,240,330	94,001	4.2
営業日数(日)		365	365	-	-
一 日 平 均	運転車両数(両)	31	31	-	-
	運転走行キロ(km)	7,348	7,325	23	0.3
	乗車人員(人)	50,236	48,643	1,593	3.3
	乗車料収入(千円)	6,395	6,138	257	4.2

*乗車人員・乗車料収入は敬老福祉パスを含む

*乗車料収入は税抜

2-1. 経営成績【全線】

(単位:百万円、税抜)

区 分		30年度決算 a	29年度決算 b	比較増減 a - b	伸び率(%) (a-b)/b	主な増減理由		
収 益 的 収 支	収 入	営 業 収 益	21,010	21,047	△ 37	△0.2		
		運 輸 収 入	定期・定期外	16,699	16,737	△ 38	△0.2	定期外収入の減
			敬老利用者負担	678	649	29	4.5	
			敬老福祉パス	1,509	1,488	21	1.4	
		敬老福祉パス	敬老バス負担金	935	924	11	1.2	
			福祉パス等負担金	574	564	10	1.8	
		そ の 他	2,124	2,173	△ 49	△2.3	付帯事業収入等の減	
		営 業 外 収 益	3,627	4,119	△ 492	△11.9		
	一 般 会 計 補 助 金	一般会計補助金	1,345	1,678	△ 333	△19.8	特例債元金補助金の減	
		長期前受金戻入	2,248	2,400	△ 152	△6.3		
		そ の 他	34	41	△ 7	△17.1		
	計	24,637	25,166	△ 529	△2.1			
	支 出	営 業 費 用	人 件 費	6,000	6,352	△ 352	△5.5	退職給付引当金等の減
			経 費	5,140	5,012	128	2.6	
減 価 償 却 費			8,382	8,904	△ 522	△5.9		
営 業 外 費 用		2,858	3,216	△ 358	△11.1			
支 払 利 息 及 び 諸 費		支払利息及び諸費	2,820	3,011	△ 191	△6.3	企業債利子の減	
		そ の 他	38	205	△ 167	△81.5		
特 別 損 失		-	-	-	-			
計		22,380	23,484	△ 1,104	△4.7			
経 常 損 益	2,257	1,682	575	34.2				
純 損 益	2,257	1,682	575	34.2				
累 積 損 益	△ 74,713	△ 76,970	2,257	2.9				
資 本 的 収 支	収 入	企 業 債	7,821	5,132	2,689	52.4	建設債の増	
		補 助 金	2,671	2,808	△ 137	△4.9		
		そ の 他	1,656	1,278	378	29.6	出資金、固定資産売却収入の増	
	計	12,148	9,218	2,930	31.8			
	支 出	建 設 改 良 費	6,960	4,235	2,725	64.3		
		企 業 債 償 還 金	10,678	11,151	△ 473	△4.2		
		そ の 他	621	367	254	69.2	投資(基金積立)の増	
	計	18,259	15,753	2,506	15.9			
収 支 差 引	△ 6,111	△ 6,535	424	6.5				
累 積 資 金 過 不 足	4,654	1,729	2,925	169.2				

※資本的収支は税込

2-2. 経営成績【線別】

(単位:百万円、税抜)

区 分		西 神 ・ 山 手 線			海 岸 線				
		30年度決算	29年度決算	比 較	30年度決算	29年度決算	比 較		
收 入	営 業 収 益	営 業 収 益	18,497	18,613	△ 116	2,513	2,434	79	
		運 輸 収 入	15,285	15,382	△ 97	2,092	2,004	88	
		敬 老 福 祉 パ ス	1,267	1,251	16	242	237	5	
		そ の 他	1,945	1,980	△ 35	179	193	△ 14	
	営 業 外 収 益	営 業 外 収 益	1,080	1,451	△ 371	2,547	2,668	△ 121	
		一 般 会 計 補 助 金	578	939	△ 361	767	739	28	
		長 期 前 受 金 戻 入	474	479	△ 5	1,774	1,921	△ 147	
		そ の 他	28	33	△ 5	6	8	△ 2	
	計	19,577	20,064	△ 487	5,060	5,102	△ 42		
	支 出	営 業 費 用	営 業 費 用	12,681	13,175	△ 494	6,841	7,093	△ 252
			人 件 費	4,835	5,091	△ 256	1,165	1,261	△ 96
			経 費	3,490	3,517	△ 27	1,650	1,495	155
			減 価 償 却 費	4,356	4,567	△ 211	4,026	4,337	△ 311
営 業 外 費 用		営 業 外 費 用	867	923	△ 56	1,991	2,293	△ 302	
		支 払 利 息 及 諸 費	832	884	△ 52	1,988	2,127	△ 139	
		そ の 他	35	39	△ 4	3	166	△ 163	
特 別 損 失		-	-	-	-	-	-		
計	13,548	14,098	△ 550	8,832	9,386	△ 554			
経 常 損 益	6,029	5,966	63	△ 3,772	△ 4,284	512			
純 損 益	6,029	5,966	63	△ 3,772	△ 4,284	512			
累 積 損 益	25,399	19,370	6,029	△ 100,112	△ 96,340	△ 3,772			
資 本 的 収 支	入	企 業 債	5,078	2,214	2,864	2,743	2,918	△ 175	
		補 助 金	48	142	△ 94	2,623	2,666	△ 43	
		そ の 他	1,468	980	488	188	298	△ 110	
		計	6,594	3,336	3,258	5,554	5,882	△ 328	
	出	建 設 改 良 費	5,890	2,733	3,157	1,070	1,502	△ 432	
		企 業 債 償 還 金	2,665	3,479	△ 814	8,013	7,672	341	
		そ の 他	621	367	254	-	-	-	
計	9,176	6,579	2,597	9,083	9,174	△ 91			
収 支 差 引	△ 2,582	△ 3,243	661	△ 3,529	△ 3,292	△ 237			
累 積 資 金 過 不 足	43,168	35,287	7,881	△ 38,514	△ 33,558	△ 4,956			

※資本的収支は税込

〈参考〉

1. 敬老・福祉乗車等負担金

(単位:千円/税抜)

		27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度決算
	西神・山手線	793,699	794,434	801,544	812,247
	海岸線	118,613	116,130	122,359	122,183
敬老バス		912,312	910,564	923,903	934,430
	西神・山手線	446,193	449,561	449,952	454,045
	海岸線	95,262	96,635	102,885	105,436
福祉バス等		541,455	546,196	552,837	559,481
敬老・福祉乗車等負担金 計		1,453,767	1,456,760	1,476,740	1,493,911
	西神・山手線	567,217	556,829	586,264	612,446
	海岸線	61,168	58,376	63,843	65,576
敬老優待乗車 利用者負担額		628,385	615,205	650,107	678,022
合 計		2,082,152	2,071,965	2,126,847	2,171,933

2. 1日あたりの乗客数の推移

(単位:人)

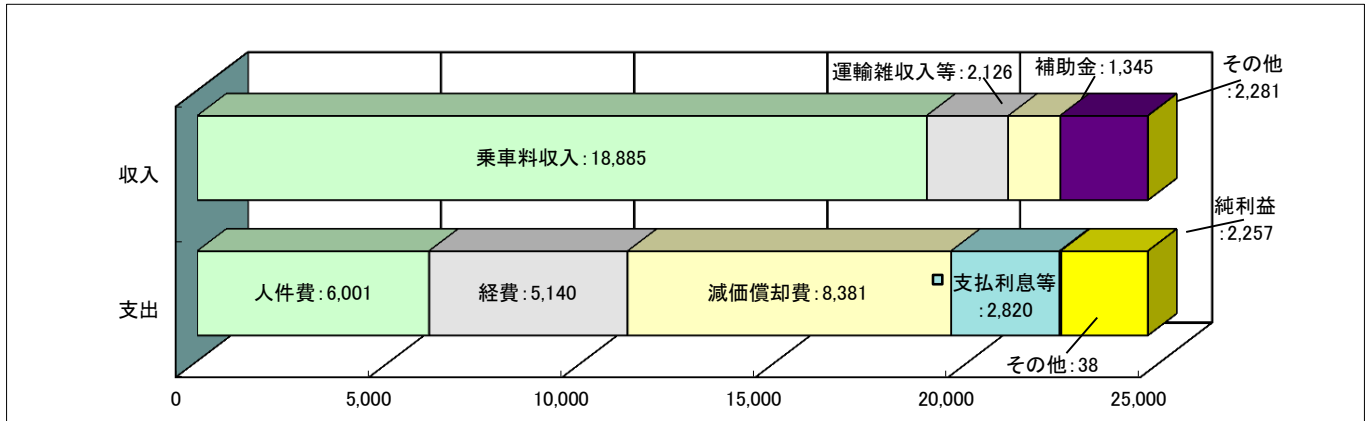
		27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度決算
	西神・山手線	232,408	231,637	232,195	231,312
	海岸線	38,891	39,890	42,486	43,965
有料乗車		271,299	271,527	274,681	275,277
	西神・山手線	15,545	15,386	16,830	17,558
	海岸線	2,506	2,461	2,838	2,917
敬老バス		18,051	17,847	19,668	20,475
	西神・山手線	14,376	14,472	14,551	14,511
	海岸線	3,059	3,100	3,319	3,354
福祉バス等		17,435	17,572	17,870	17,865
西神・山手線 計		262,329	261,495	263,576	263,381
海岸線 計		44,456	45,451	48,643	50,236
合 計		306,785	306,946	312,219	313,617

<参考>

①経営状況 平成30年度決算

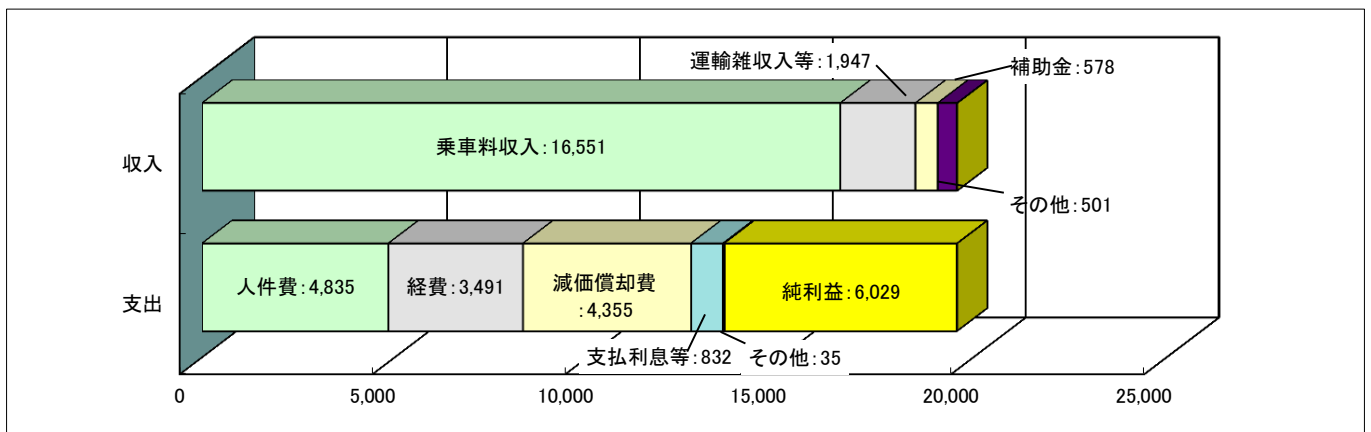
【全線】

(単位:百万円、税抜)

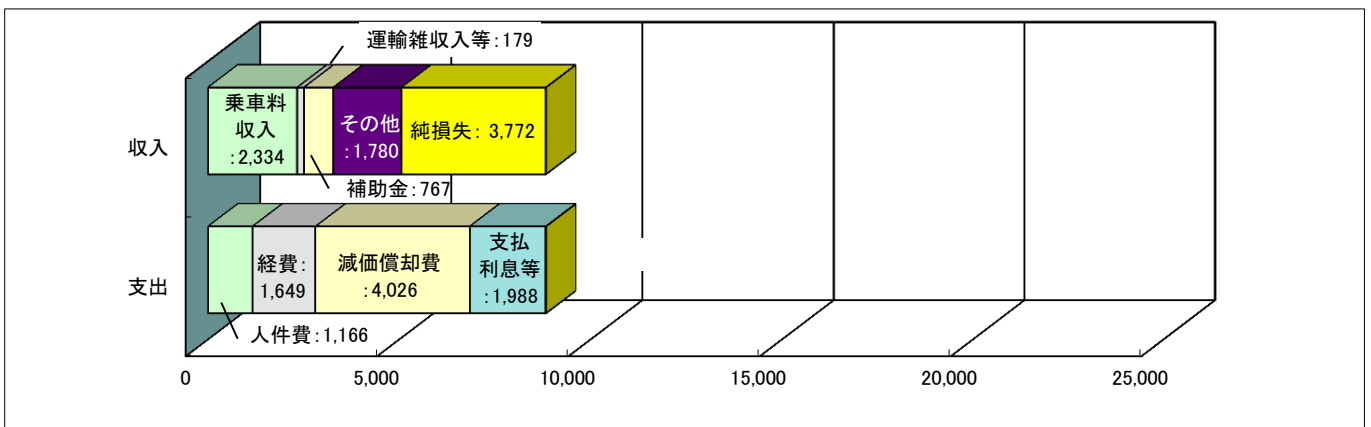


【線別】

(西神・山手線)



(海岸線)



※ 乗車料収入には、敬老福祉パス負担金を含む

②職員数

(単位:人)

	31年度 予算	30年度 (A)	29年度 (B)	増△減 (A-B)
損益勘定	603	602	601	1
事務	196	201	201	-
技術	105	99	98	1
技士	75	75	75	-
運転士	118	118	118	-
車掌	55	55	55	-
駅掌	54	54	54	-
資本勘定	13	13	13	-
合計	616	615	614	1

③企業債残高

(単位:百万円)

	31年度 予算	30年度 (A)	29年度 (B)	増△減 (A-B)
年度当初残高	156,667	159,524	165,543	△ 6,019
償還額	10,897	10,678	11,151	△ 473
借入額	12,452	7,821	5,132	2,689
年度末残高	158,222	156,667	159,524	△ 2,857

④経営指標

(単位:%)

	31年度 予算	30年度 (A)	29年度 (B)	増△減 (A-B)
経常収支比率	101.3%	110.1%	107.2%	2.9%

貸借対照表

高速鉄道事業会計

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
固 定 資 産	237,907,167	固 定 負 債	154,466,376
運送施設有形固定資産	496,871,514	企 業 債	145,769,762
減価償却累計額	△ 268,433,895	退職給付引当金	5,894,556
運送施設建設仮勘定	2,232,884	その他固定負債	2,802,058
計	230,670,503	流 動 負 債	17,851,430
付帯事業有形固定資産	13,940,305	企 業 債	10,896,483
減価償却累計額	△ 10,419,914	未 払 金	4,705,669
付帯事業建設仮勘定	3,939	前 受 金	1,605,058
計	3,524,330	預 り 金	199,475
運送施設無形固定資産	59,052	賞 与 引 当 金	355,223
投 資	3,653,282	法定福利費引当金	67,221
流 動 資 産	11,634,696	その他流動負債	22,301
現 金 預 金	7,936,224	繰 延 収 益	49,264,432
未 収 金	3,519,523	長 期 前 受 金	123,360,574
貯 蔵 品	178,633	収益化累計額	△ 74,096,142
前 払 費 用	316	計	49,264,432
		資 本 金	87,707,900
		自 己 資 本 金	87,707,900
		自 己 資 本 金	145,900
		他 会 計 出 資 金	87,562,000
		剰 余 金	△ 59,748,275
		資 本 剰 余 金	14,964,617
		受 贈 財 産 評 価 額	109,562
		建 設 受 入 寄 付 金	414,519
		建 設 補 助 金	1,609,596
		他 会 計 繰 入 金	10,907,750
		他 会 計 補 助 金	1,753,298
		そ の 他 剰 余 金	169,892
		利 益 剰 余 金	△ 74,712,892
		当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	△ 74,712,892
合 計	249,541,863	合 計	249,541,863

Ⅲ 平成 30 年度 主要事業について ～ 新 規 事 業 ～

1. 地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験の継続

1. 事業概要

既設インフラの有効活用による地域活性化及び、沿線地域への若年世代・子育て世帯の交流・流入・定住促進による乗客増を目的として、平成 29 年 7 月より実施している地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験を、平成 30 年度も継続して通年で実施した。

2. 事業内容

- (1) 乗車料金：無料
- (2) 実施期間：平成 30 年 4 月 1 日（日）～平成 31 年 3 月 31 日（日）の 1 年間
- (3) 対象日・時間帯：全日・始発から終発まで
- (4) 対象者：中学生以下で、その確認のできる方
- (5) 対象区間：地下鉄海岸線全区間
- (6) 運用方法：磁気カード

※地下鉄三宮・新長田定期券発売所で受付。中学生以下の身分証明確認の上、交付。

～ 継 続 事 業 ～

1. 安全で信頼される公共交通

1-1. 安全性の強化

(1) 運輸安全マネジメントによる安全性の向上

JR 西日本の事故を教訓に、平成 18 年 10 月、輸送の安全に向け、基本方針、重点施策、計画などを定めた市バス・地下鉄の「安全管理規程」を制定し、その運用を通じ安全運行に努めてきた。

平成 30 年度も、この安全マネジメントの運用をさらに実効性あるものにするため、非常事態を想定した訓練や各種研修、内部監査の実施、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用、お客様への啓発活動など安全管理体制の一層の強化に努めた。

(2) 地下鉄のさらなる安全・安心運行の推進

安全性の確保は、公共交通機関における輸送の生命であり、お客様に安全に安心してご利用いただけるよう平素から全力をあげて事故防止に努めている。また、車両は 20 年目に大規模の車体改修を行い、変電所は約 35 年目ごとに全面更新するなど、施設や車両機器を計画的に更新し、さらなる安全・安心運行に努めている。平成 30 年度は駅舎改修、変電所・駅電気室更新工事、及び信号保安・通信設備（運行管理システムや乗客案内表示装置等）の更新工事等を実施した。

(3)地下鉄西神・山手線 ホームドア設置

駅ホームからの転落や車両との接触事故を防止するため、西神・山手線全駅にホームドアの設置を進めた。平成 30 年 3 月に稼動した三宮駅に続き、西神中央駅・名谷駅・新長田駅の 3 駅について、実施設計を行った。

(4)西神・山手線 新造車両の導入

西神・山手線車両の全 28 編成の更新を行う。平成 30 年度から令和 4 年度まで順次導入する予定で、平成 30 年度は 2 編成を導入した。新型車両は既存車に比べ、ホームドアとの連動対応、火災対策の強化、機器の故障時に迅速な対応が可能となる高度な機器監視装置の設置、戸ばさみの際に抜けやすくなる減圧機能付きの乗降扉の設置など安全性を向上させている。また、バリアフリー対応・快適性向上、省エネ性向上にも考慮した仕様としている。

(5)災害対策の強化

建物の耐震改修などの施設整備を行うことで、南海トラフ地震などの大規模災害に備える。平成 30 年度は名谷車両基地の耐震改修工事を進めたほか、海岸線防災設備監視システムの更新に平成 30 年 6 月着手した。

また、平成 29 年度から実施している市バス松原営業所の建て替えを進めた。

1-2. 利便性の向上

(1)わかりやすい案内・サインの充実

市バスをより多くの方にもっと便利にお使いいただけるよう、バス情報提供システム「えきバスびじょん。」(西神中央駅、名谷駅設置)、パソコンやスマートフォンから市内の公共交通機関の乗継検索が出来る「KOBE 乗継検索」などのサービスを提供した。

また、バス停や地下鉄駅施設での4ヵ国語表記を進めるとともに、職員への語学研修も実施して、国外からのお客様にもわかりやすい案内ができるようハード、ソフト両面の取組みを進めた。

さらに平成 30 年度は、特に外国人利用客の多い三宮駅、新神戸駅において、よりきめ細やかな対応ができるよう、タブレット端末による映像通訳サービスを試験導入した。

(2)バスロケーションシステムの提供

パソコンやスマートフォンで、バスが実際にどこを走っているのか、確認できる「バスロケーションシステム」を提供した。

1-3. 快適性の向上

(1)利用者に配慮したバス停・バスターミナルの整備

高齢化社会の進展に伴い、高齢者の方に安心してより快適に市バスを利用していただけるよう、バス停におけるベンチ・屋根の設置を積極的に進めていくとともに、屋根の設置できないバス停におけるバス待ちの環境を改善するため、バス停に置き傘の設置を継続して行った。

また、デザイン都市神戸の街並みにふさわしく、いつもきれいで安全なバス停・バスターミナルを目指し、老朽化したバス停・バスターミナル施設の補修に努めた。

(2)新神戸駅エスカレーター更新・整備

新幹線との結節点である新神戸駅において、既存のエスカレーターの主要機器の更新と、新たに改札内下りエスカレーターの設置に取り組む。平成 30 年度は、改札外にある 6 基のエスカレーターの主要機器を更新した。また、新設する改札内下りエスカレーターは設計を完了した。

1-4. お客様のニーズに応じた取り組み

(1) 利用者ニーズの把握

市バス・地下鉄の乗降データや交通調査、各種アンケート、地域やお客様からいただいた要望を活用し、高齢者・若者・通勤者・通学者など利用主体ごとのニーズや動向、地域の特徴を把握することで、新たな需要の創出や潜在需要の掘り起こしを図った。

(2) 需要に応じた路線・ダイヤの設定・見直し

バス路線に対する市民要望に応え、路線の新設、変更などを実施するとともに、増便や減便、始終発延長など、効率的なダイヤ編成を引き続き行った。

① 路線新設

系統	新運行区間	変更内容	備考
41 系統	西神南駅前～サイエンスパーク～サイエンスパーク南～西神南駅前	サイエンスパークにおける企業等による需要に対応するため、路線を新設する。 (平日：28 本、土休日：22 本) (新設バス停：サイエンスパーク、サイエンスパーク南)	平成 30 年 10 月 1 日 実施

② 路線変更

系統	従来区間	変更内容	備考
30 系統	JR 甲南山手～阪神深江～東灘高校前～深江浜町	昼間時間帯に深江浜町方面へ延伸する。 (平日：1 本)(新設バス停：深江浜町西) (平成 30 年夏～秋ごろ 1 本→6 本)	平成 30 年 4 月 1 日 実施
31 系統	JR 甲南山手～JR 本山駅前～岡本 9 ～白鶴美術館前～渦森台	JR 本山駅前～西岡本 7 丁目へ路線変更し、増便する。(平日朝夕時間帯に各 1 本) (新設バス停：西岡本 7 丁目)	平成 30 年 4 月 1 日 実施
39 系統	阪神御影～住吉宮町～JR 住吉駅前～阪急御影～甲南病院前～鴨子ヶ原	午前 9 時以降の便について、東灘区役所、魚崎北町 7 丁目、住吉東町 1 丁目方面へ延伸する。 (新設バス停：住吉東町)	平成 30 年 10 月 1 日 実施
46 系統	西神南駅前～ハイテクパーク～団地口～西神南駅前	土休日の最終便である西神南駅発団地口止まりの便を、サイエンスパークを経由し、西神南駅前へ延伸する。	平成 30 年 10 月 1 日 実施
90 系統	石屋川～灘区役所前～布引～地下鉄三宮駅前～元町 1 丁目～中突堤中央ターミナル	税関前、新港町を経由する路線に変更し、運行本数を見直す。 (石屋川～灘区役所前～布引～地下鉄三宮駅前～税関前～新港町～中突堤中央ターミナル) (18 本→12 本)(新設バス停：新港町)	平成 30 年 4 月 1 日 実施

③ 増便・減便等

系統	区間	内容	備考
4 系統	神戸駅前～大日丘住宅前～神戸駅前	111 本→97 本	平成 30 年 4 月 1 日 実施

系統	区間	内容	備考
21 系統	西体育館～かすがプラザ～美賀多台4～西神中央駅前	西体育館発の終発繰上 (21:30→19:04) (代替として 28 系統最終便 21:57)	平成 30 年 4 月 1 日 実施
40 系統	神戸駅前～夢野町～名倉町～大日丘住宅前～神戸駅前	13 本→12 本	平成 30 年 4 月 1 日 実施
58 系統	朝霧駅前～神陵台～伊川谷高校前～伊川谷駅前	「朝霧駅前」始発繰上 (6:55→6:52)	平成 30 年 4 月 1 日 実施
79 系統	名谷駅前～若草町～東白川台 (一部は東白川台団地内経由)	東白川台団地内經由便： 6 本→7 本(最終便)	平成 30 年 4 月 1 日 実施
92 系統	石屋川～石屋川車庫前～布引～地下鉄三宮駅前～三宮神社(元町1)	224 本→216 本	平成 30 年 4 月 1 日 実施
121 系統 他(舞子線)	学園都市駅前～学が丘～掖済会病院前～西部障害者センター～掖済会病院前～学が丘～学園都市駅前	121 系統 5 本→3 本 (山陽バス：6 本→8 本) 舞子線(51,53,54 系統) 6 本を山陽バスへ振替	平成 30 年 4 月 1 日 実施

④ 乗継利便性の向上

ご利用者の乗継利便性の向上を図るため、「若草町」バス停における 5 系統から 79 系統、84 系統、125 系統へ乗り継ぐための待ち時間が少なくなるようダイヤの見直しを行った。

(3) 学校等への直行便の運行

特に学校を中心とした同じ目的地へ大量に運ぶ必要がある場合に、迅速かつ効率的な輸送ができるよう、直行便の運行について取り組んだ。

系統	区間	変更内容	備考
16 系統	JR 六甲道駅～神大国際文化学研究科前	JR 六甲道駅発の直行便の運行経路を変更し、神戸大学の敷地内(神大国際文化学研究科東口)まで運行する。また、阪急六甲からの直行便を新たに運行する。 (JR 六甲道駅→神大国際文化学研究科東口：3 本) (阪急六甲→神大国際文化学研究科東口：2 本)	平成 30 年 4 月 1 日 実施
18 系統	三宮駅ターミナル前～青谷～摩耶ケーブル下～阪急六甲～JR 六甲道駅	沿線学校(※)の需要に対応するため、新たに直行便を運行する。 (三宮駅ターミナル前→地下鉄三宮駅前→布引→青谷→神戸高校前→摩耶ケーブル下：3 本) ※神戸龍谷中学校高等学校・松蔭中学校高等学校・神戸海星女子学院・神戸高校	平成 30 年 4 月 1 日 実施

系統	区間	変更内容	備考
19 系統	阪神御影～城ノ前～阪急御影～深田池～甲南病院前～鴨子ヶ原	神大附属中等教育学校の生徒の需要に対応するため、直行便の増便を行う。 (深田池→神大附属前：2本→6本)	平成30年4月1日実施
39 系統	阪神御影～住吉宮町～JR 住吉駅前～阪急御影～甲南病院前～鴨子ヶ原	神大附属中等教育学校の生徒の需要に対応するため、新たに直行便の運行を行う。 (JR 住吉駅前→神大附属前：6本)	平成30年4月1日実施
72 系統	須磨一の谷～離宮公園前～下畑～多井畑厄神～須磨一の谷	神戸女子大学の学生の需要に対応するため、神戸女子大学構内からの直行便を運行する。 (神戸女子大学正門前→須磨駅前：2本)	平成30年4月1日実施

(4)民間事業者等との協働によるバス路線の拡充・維持

市内の路線バスを運行する民間事業者等との協働により、市バスの運行経費を削減しつつ、バス路線の拡充や維持を図った。

- ①神戸交通振興(株)が運行するポーアイキャンパス線については、運行を神姫バスに任せ、それにより生み出される余力によって中央区・兵庫区の市バス路線7系統について、一部の便を神戸交通振興(株)の自主路線として運行してもらうことで、市バスの運行経費を削減しつつ、便数を維持した。
- ②西区の市バス路線24系統について、一部の便を神姫バスの自主路線として運行してもらうことで、市バスの運行経費を削減しつつ、便数を拡充した。
- ③須磨区の市バス路線71・75系統について、一部の便を神姫バスの自主路線として運行してもらうことで、市バスの運行経費を削減しつつ、便数を拡充(最終便の延長)した。

系統	区間	変更内容	備考
7 系統	市民福祉交流センター前～三宮駅前～平野～新開地～神戸駅前	神戸交通振興(株)との共同運行を実施する。 (226本→市バス：216本 神戸交通振興：10本)	平成30年4月1日実施
24 系統	西神中央駅前～狩場台～西神中央駅前	神姫バス(株)との共同運行を実施する。 (83本→市バス：66本 神姫バス：23本) (計89本(6本増便))	平成30年4月1日実施
71 系統	須磨一の谷～離宮公園前～多井畑厄神～北須磨団地	神姫バス(株)との共同運行を実施する。 (26本→市バス：22本 神姫バス：4本)	平成30年4月1日実施
75 系統	須磨一の谷～離宮公園前～高倉台～横尾～妙法寺駅前 (一部は須磨区役所経由・JR鷹取駅発着)	神姫バス(株)との共同運行を実施する。 (194本→市バス：169本 神姫バス：26本) (計195本(1本増便・終発延長))	平成30年4月1日実施

1-5. 質の高いサービスの提供

(1)接客マナー・安全意識の向上とサービス改善・事故防止

市バス・地下鉄の安全・安心な運行を目指すとともに、親切丁寧な接客姿勢や服務規律の徹底を通し、質の高いサービスの提供に努めた。

市バスでは、「乗務員研修」や「添乗調査」などを実施するとともに、実際の事故をドライブレコーダーで検証し、事故防止を図った。また、グッドドライバー賞などの優秀な職員への表彰制度を活用し、モチベーションの向上に努めた。

地下鉄では、定期教育訓練や外部講師による応対研修などを実施し、また業務上の危険や事故を未然に防いだ優秀な職員に対して運輸長表彰を行い職員の意識啓発に努めた。

(2)お客様の意見を取り入れた業務改善

市バスの「お客様の声ハガキ」や地下鉄の「メッセージBOX」や地域の集まりなど、あらゆる機会をとらえてお客様の意見を積極的に取り入れた。さらに、「お客様満足度調査」や「市バス・地下鉄モニター」を実施し、サービスの向上と業務改善につなげた。

2. まちづくりや地域社会への貢献

2-1. 人にやさしい公共交通

(1)市バス低床化 100%に伴う停留所における点字ブロック設置の推進

すべての人が乗り降りしやすいバス車両のバリアフリー化を目指して車両更新を行ってきた結果、平成 24 年度末に、交通バリアフリー法による移動円滑化基準に適合したバス車両による「市バス低床化 100%」を達成しており、これに伴うバス乗車口の中扉化に対応した停留所の点字ブロック設置および位置改修を、順次実施した。

(2)市バス福祉体験授業の実施

ノンステップバスを活用し、市内の小学生が車いすなどでの乗車体験や介助体験を通して福祉について学ぶ「市バス福祉体験授業」を、平成 30 年度は市内の小学校 17 校で実施した。

[取組実績]

- 平成 26 年度：市内の小学校 20 校
- 平成 27 年度：市内の小学校 19 校
- 平成 28 年度：市内の小学校 15 校
- 平成 29 年度：市内の小学校 14 校
- 平成 30 年度：市内の小学校 17 校



(3)駅施設のユニバーサル対応の推進

ひとにやさしい地下鉄を目指して、多様な利用者のニーズに対応するため、ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備を進めていく。平成 30 年 12 月に、三宮駅西口のホーム階からコンコース間のエレベーターが稼動した。また、三宮駅の東西の両改札口をつなぐ連絡通路の一般共用化など、バリアフリーに対応した経路とするための検討を進めた。さらに、西神・山手線湊川公園駅について、神戸電鉄との乗り換え経路の利便性向上に向けて、新たなエレベーター設置に向けた調査を行った。

さらに、平成 28 年度から進めている地下鉄海岸線の乗客案内表示装置について更新工事を完了させた。

2-2. 環境にやさしい公共交通

(1)エコファミリー制度、エコショッピング制度の実施

マイカー利用から公共交通利用への転換を促すため、土・日・祝日、夏休み・年末年始に、大人1人につき同伴する小学生以下の料金を無料にするエコファミリー制度を引き続き実施した。また、市バスまたは地下鉄を利用して提携店舗に来店したお客様に割引などのサービスを提供するエコショッピング制度を、商店街や個別店舗の協力を得て引き続き実施した。

(2)省エネルギー対策の推進

こうべバイオガスの継続利用

下水の処理過程で発生する消化ガスを精製した「こうべバイオガス」を利用する市バスの営業運行を平成18年10月より実施している。平成30年度も引き続き、魚崎営業所に在籍するCNGバス全車(平成30年度:11両)で、環境にやさしい「こうべバイオガス」を燃料として営業運行を行った。

照明のLED化

鉄道の省電力化・低炭素化のため、駅・施設の照明設備をLED化する。平成30年度は、西神・山手線の西神南駅の照明設備のLED化を行った。

(3)市バス走行環境の改善

市民の大切な足である市バスの定時運行・安全運行を確保するため、主要なバス停にガードマン・誘導員を配置した。また、市バスの走行環境を守るための啓発活動や関係機関への要請活動などに取り組んだ。

3. 「市民の足」であり続けるための経営基盤強化

3-1. 収益力の向上

(1)市バスの乗客増対策の推進

市バスの乗客増のために、三宮駅～神戸駅周辺に点在する一宮から八宮の神社を市バスで巡拝する「八社巡り」や北区の国指定重要文化財を巡る「北区重要文化財めぐり」、灘の酒蔵を巡る「酒蔵めぐり」のほか、平成 30 年2月より開始した縁結びのパワースポットを紹介する「恋愛パワースポットを市バスでめぐる」など、市バスを使って楽しめる周遊コース等の企画、PR を引き続き行った。また、平成 26 年度から開始した IC カードによる市バス乗継割引をさらに市民の方に使用していただけるよう、制度の周知を引き続き行った。

また、沿線大学と連携して学生をターゲットにした市バス利用の PR に取り組み、需要の創出・拡大に努めた。

(2)地下鉄の乗客増対策の推進

海岸線の乗客増対策として引き続き、交通局自主イベントのほか、地域・関係機関とタイアップした各種事業を積極的に展開するとともに、平成 30 年度は西神・山手線においても同様に乗客増対策に取り組んだ。

○地下鉄沿線におけるイベントなどの誘致・実施

乗客増対策の一環として、沿線地域の大規模集客施設や企業・店舗などと連携し、積極的なイベント開催及び誘致を展開した。

○トップスポーツチームとの連携事業の展開

地下鉄沿線にホームグラウンドをもつトップスポーツチームとタイアップ企画を実施し、乗客増及び集客増に向けた取り組みを行った。

○イオンモールとの連携

中央卸売市場西側跡地に開業したイオンモール神戸南と、交通系 IC カードを利用したポイント制度「グリーンスコア」の運用や市バス・地下鉄利用者が専門店等でサービスを受けられるような企画などで、乗客増につながるよう連携を進めていく。

○沿線情報の発信

交通局沿線情報サイト「神戸市交通局沿線NAVI」を活用し、地下鉄沿線などで実施する交通局の取り組みや、各種のイベント情報などを効果的に発信した。また、地下鉄の乗客増が見込めるイベントへの広報協力を展開することで、より効果的な乗客増及び集客増を図った。

(3)附帯事業の収入増対策

地下鉄の収益力強化とお客様の利便性向上を目的に、広告事業や、駅構内の空きスペースを有効活用した駅ナカビジネスの推進に努めている。

平成 30 年度は、広告料収入の拡大に向けて、市バス・地下鉄における広告スペースを紹介する冊子「メディアガイド」を更新した。駅ナカビジネスにおいては、阪急三宮ビルの建て替えにあわせ、限られたスペースを最大限活用できるよう三宮駅構内店舗等レイアウトの検討を行い、新たなスペースを捻出した。

3-2. 経営の効率化

市バス営業所の管理委託の継続

自動車事業における経営改善として営業所の管理委託を継続した。平成 30 年度については、平成 28 年度に実施した提案競技で決定した各営業所の受託事業者へ営業所の委託を行った。また、新たに民間事業者の営業所を活用した営業所の管理委託を行うことにより、市バス路線の一部（2 系統の一部）を委託した。提案競技により選定した受託事業者へ令和 4 年度まで管理委託を行った。

委託営業所	受託事業者
魚崎営業所	神戸交通振興(株)
松原営業所	阪急バス(株)
落合営業所	神姫バス(株)
西神営業所	〃
中央南営業所	〃

3-3. 北神急行線

北神急行線の市営地下鉄との一体的運行について、平成 31 年 3 月 29 日に、阪急電鉄グループと基本合意をし、遅くとも令和 2 年 10 月 1 日までの実施を期限として、谷上～三宮間の運賃を 280 円となる水準を目指し、準備を進めている。

「神戸市営交通事業 経営計画2020」の取組状況

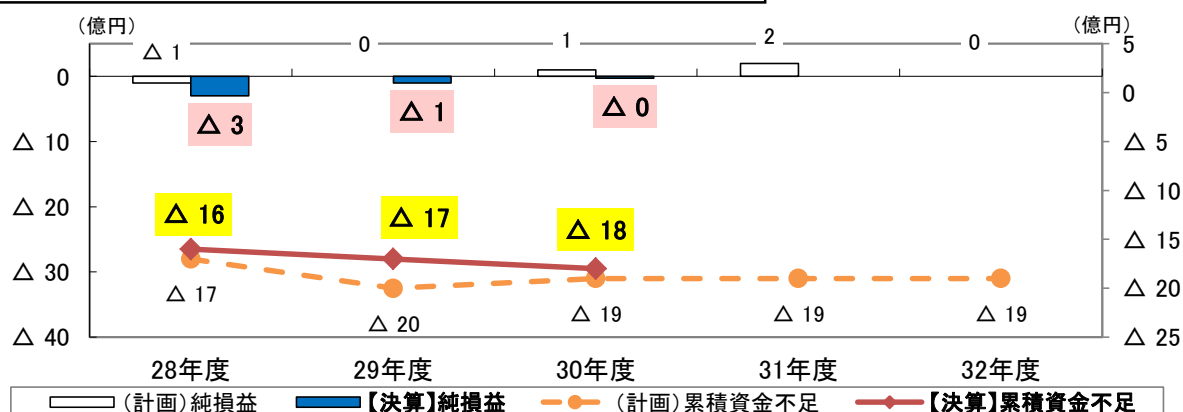
1. 財政目標
2. PDCAサイクルによる進行管理
3. 平成30年度の主な取組状況

2. 「神戸市営交通事業 経営計画2020」の取り組み状況

(1) 財政目標

〔自動車事業〕

①単年度収支の均衡 ②累積資金不足額の縮減
(目標額)5年間の収支改善額累計 21億円

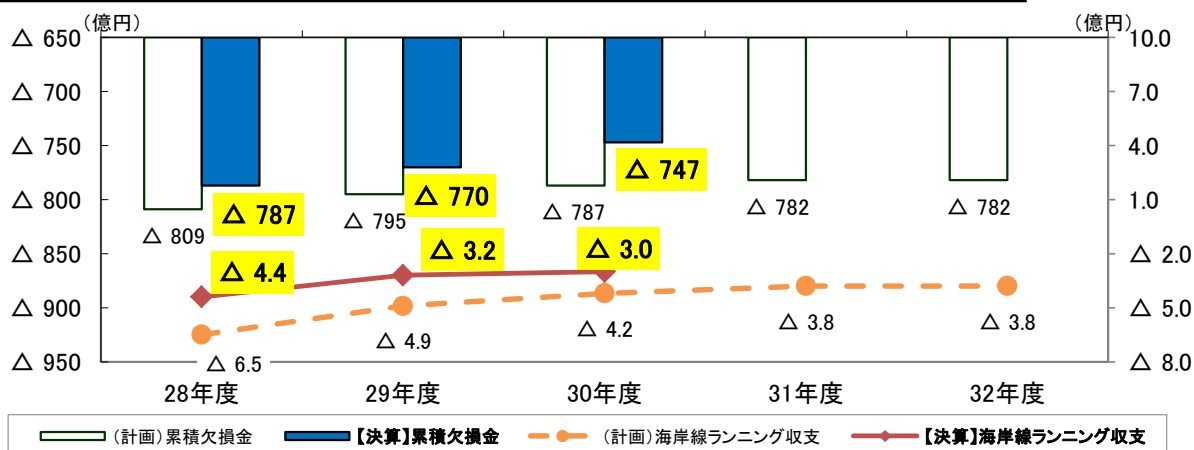


(改善額)	H28		H29		H30		H31		H32	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
経営の効率化	2.4	2.3	3.5	3.0	5.1	3.1		4.7		4.7
収益力の向上	△1.7	0.2	△1.7	0.5	△2.4	0.7		0.9		1.1
改善額計	0.7	2.5	1.8	3.5	2.7	3.8		5.6		5.8

平成30年度の純損益は0.3億円の赤字となり、30年度の目標額を下回ったが、累積資金不足額は18億円となり、30年度の目標額を達成した。収支改善額は累計で5.2億円となり、目標額を下回った。

〔高速鉄道事業〕

①累積欠損金の縮減 ②海岸線ランニング収支の均衡に向けた収支改善
(目標額)5年間の累積欠損金縮減額累計 17億円



(改善額)	H28		H29		H30		H31		H32	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
経営の効率化	2.9	1.0	2.4	1.9	4.5	2.9		3.9		4.7
収益力の向上	2.6	0.1	3.0	0.3	2.4	0.4		0.5		1.7
改善額計	5.5	1.1	5.4	2.2	6.9	3.3		4.4		6.4

平成30年度の純損益は22億円の黒字、累積欠損金は747億円、海岸線ランニング収支は3.0億円の赤字となり、30年度の目標額を達成した。収支改善額は累計で17.8億円となり、目標額を達成した。

※各指標の進捗状況

(1) 安全性の強化

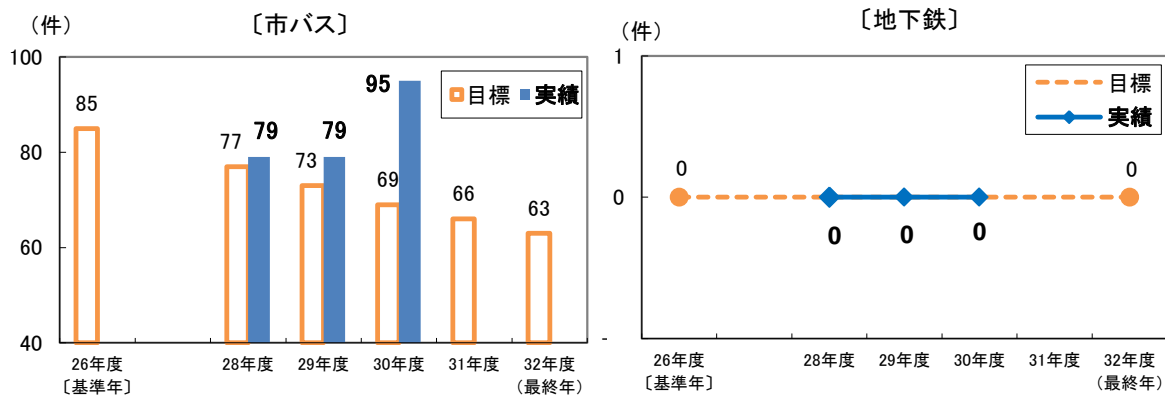
【指標(1) 有責事故件数の削減】

〔市バス〕

・平成26年度目標と比較して毎年5%削減

〔地下鉄〕

・開業以来責任事故ゼロの実績を維持

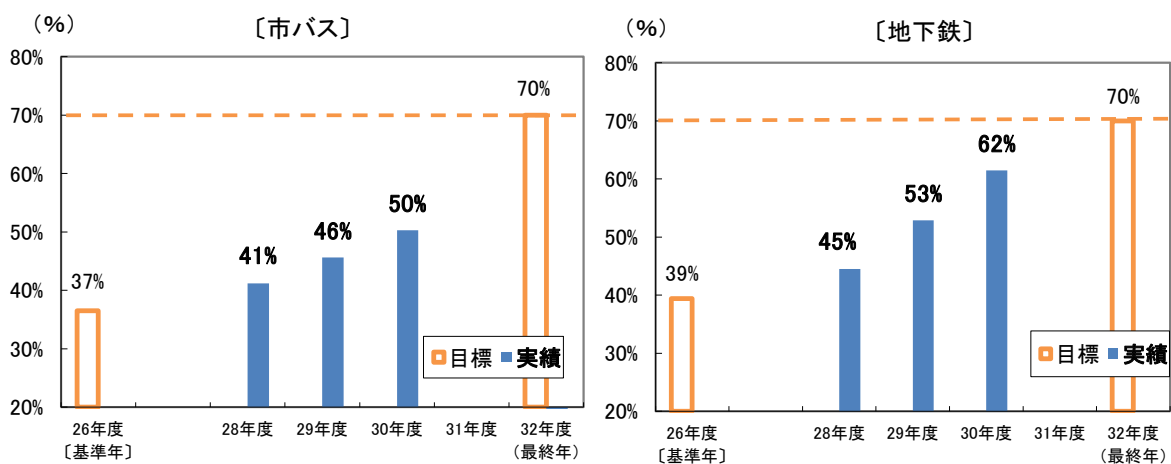


バスの有責事故件数は95件となり、平成30年度の目標は達成できなかった。
地下鉄の有責事故件数は0件であり、開業以来責任事故ゼロの実績を維持した。

(2) 利便性の向上

【指標(2) ICカード利用率の向上】

平成32年度までに、市バス・地下鉄それぞれで乗車人員の70%にする

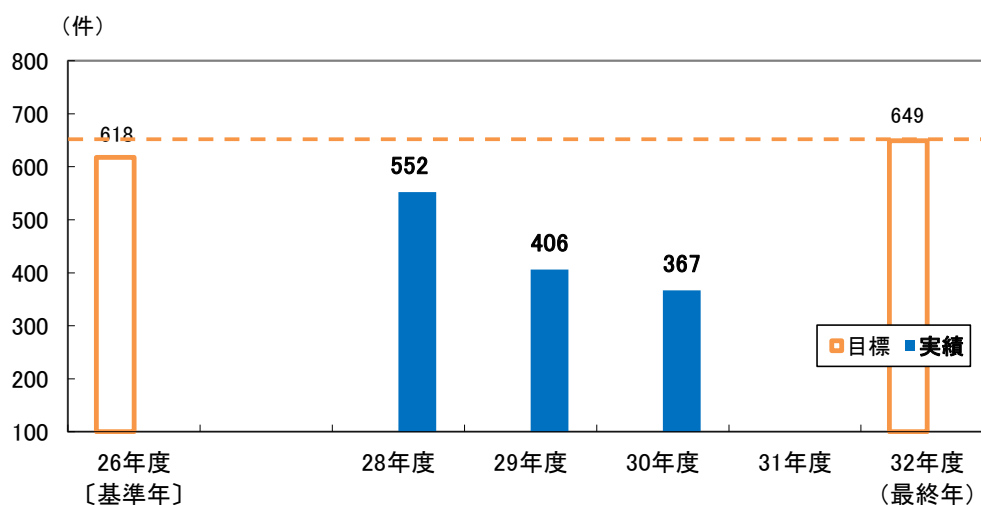


バスのICカード利用率は50%、地下鉄のICカード利用率は62%となり、最終年度の目標に向けて増加した。

(3) 快適性の向上

【指標(3) お客様の声はがき等のお褒めの件数の増加】

平成32年度までに、平成26年度から5%増加させる



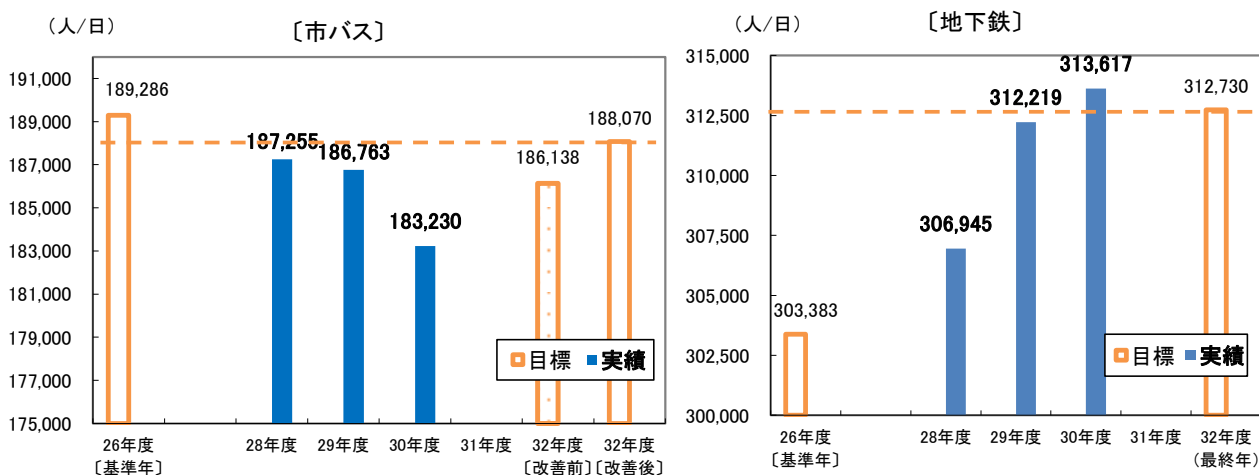
お客様からのお褒めの件数は367件で基準年より減少した。

(4) お客様のニーズに応じた取り組み

【指標(4) 乗車人員の増加】

〔市バス〕
平成32年度までに、改善前見込みから
1%増加させる

〔地下鉄〕
平成32年度までに、平成26年度から
3%増加させる

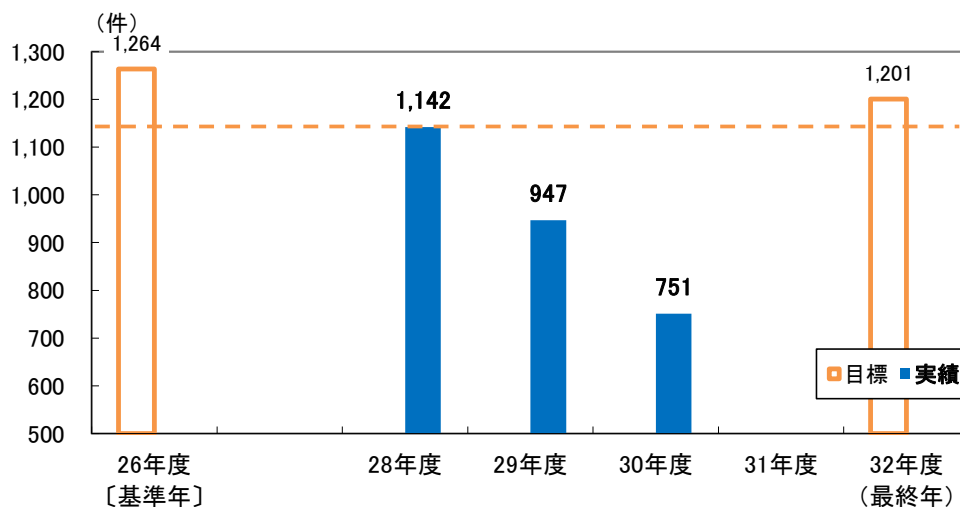


バスの乗車人員は1日平均183,230人で基準年より減少した。

地下鉄の乗車人員は1日平均313,617人で最終年度の目標より増加させることができた。

(5) 質の高いサービスの提供

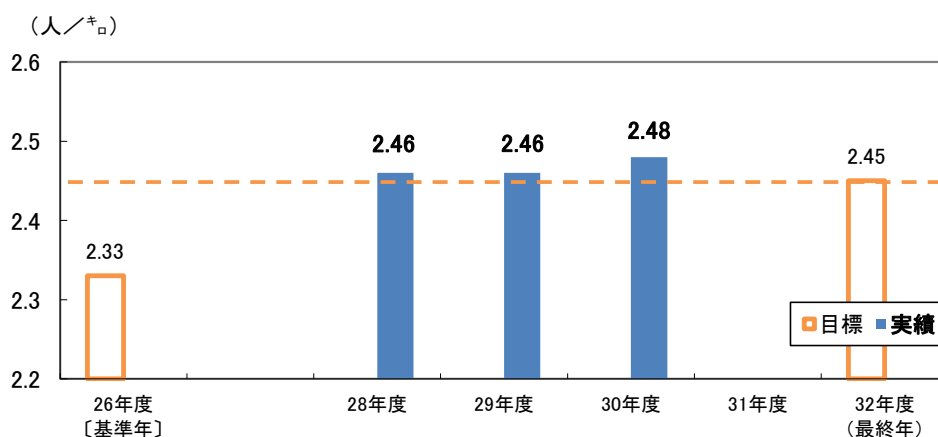
【指標(5) お客様の声はがき等の苦情の件数の減少】
平成32年度までに、平成26年度から5%減少させる



お客様からの苦情の件数は751件となり、最終年度の目標より減少させることができた。

(6) 総合交通体系における取り組み

【指標(6)-1 地域密着型バス路線のキロ当たり乗車人員の増加】
平成32年度までに、平成26年度から5%増加させる



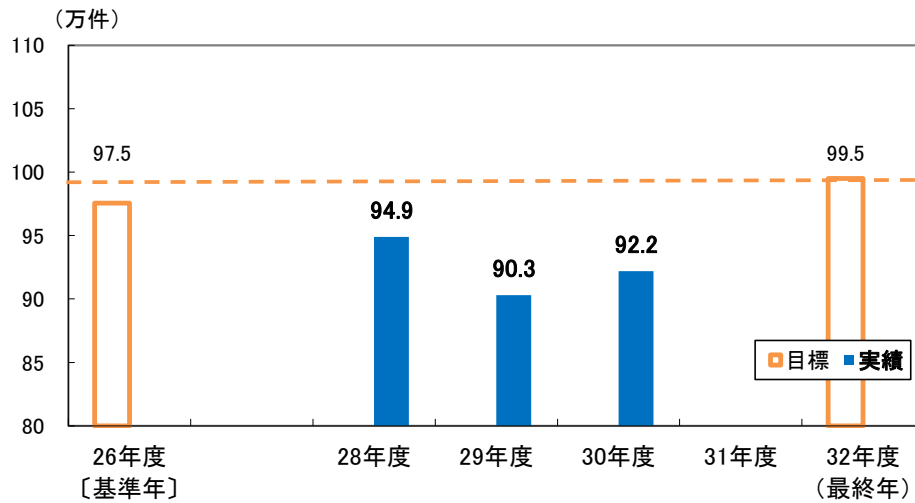
* 対象系統:7路線(灘南北、26、37、57、83、87、101系統)の合計

地域密着型バスのキロ当たり乗車人員は2.48人/キロとなり、最終年度の目標より増加させることができた。

(6) 総合交通体系における取り組み

【指標(6)-2 エコファミリー制度の利用件数の増加】

平成32年度までに、平成26年度から2%増加させる

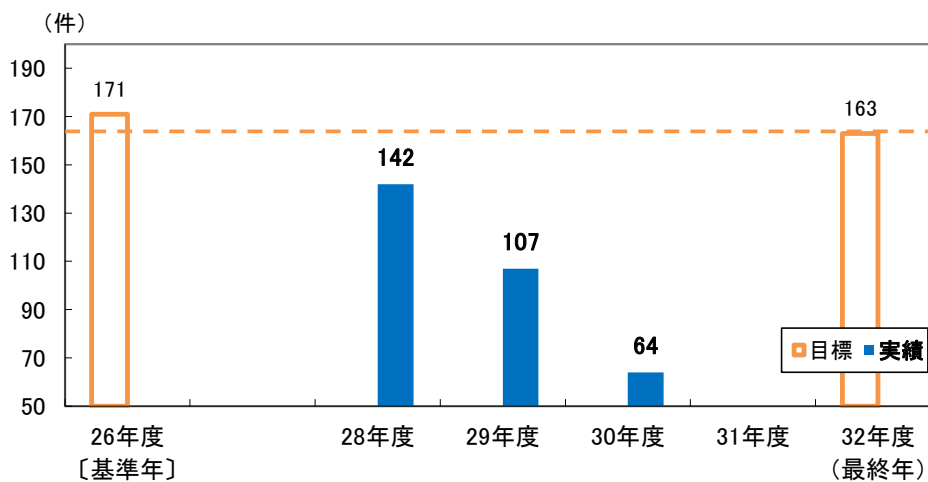


エコファミリー制度の利用件数は92.2万件で基準年より減少した。

(7) 人にやさしい公共交通

【指標(7) バス停や案内表示等への要望の件数の減

平成32年度までに、平成26年度から5%減少させる

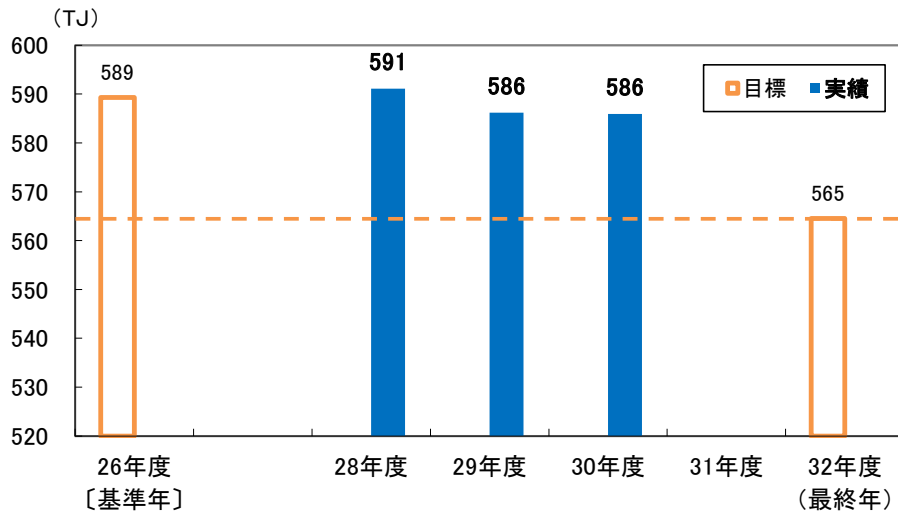


お客様からのバス停や案内表示等への要望の件数は64件となり、最終年度の目標より減少させることができた。

(8) 環境にやさしい公共交通

【指標(8) 最終エネルギー消費量の削減】

神戸市地球温暖化防止実行計画に基づき、平成32年度までに、平成26年度から4%削減する

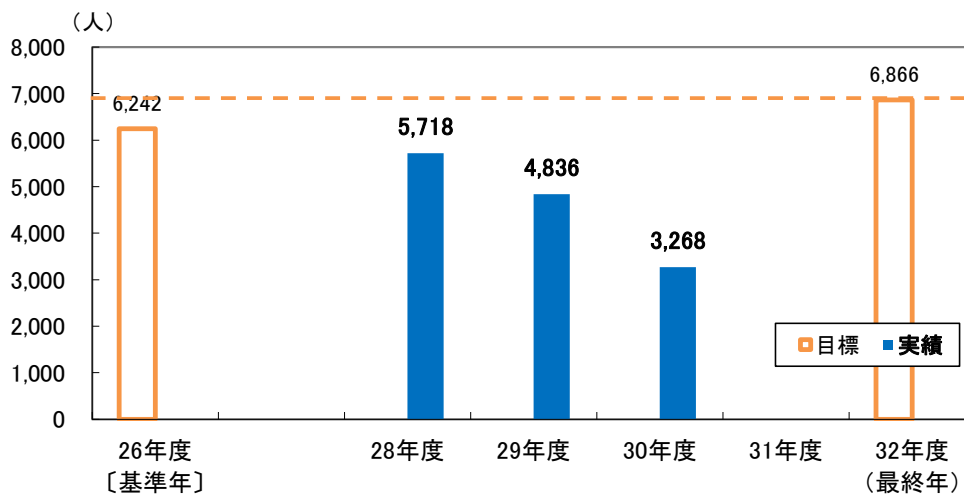


最終エネルギー消費量は586TJ(テラジュール)となり、最終年度の目標に向けて減少させることができた。

(9) 地域との協働

【指標(9) エコショッピング制度参加人数の増加】

平成32年度までに、平成26年度から10%増加させる

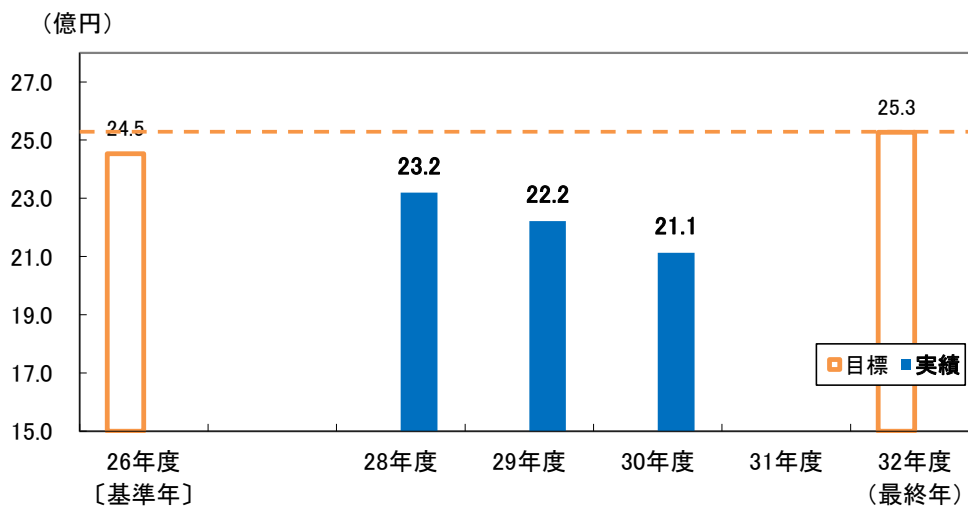


エコショッピング制度の参加人数は3,268人で基準年より減少した。

(10) 収益力の向上

【指標(10) 附帯事業収入の増加】

平成32年度までに、平成26年度から3%増加させる

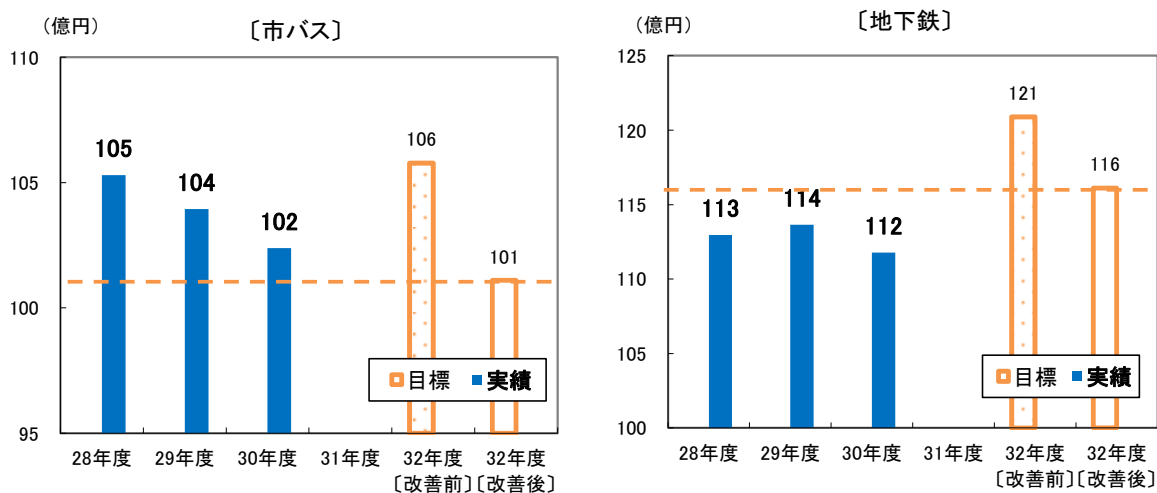


附帯事業収入は21.1億円で基準年より減少した。

(11) 経営の効率化

【指標(11) 運行経費の削減】

平成32年度までに、市バス・地下鉄それぞれで、改善前見込みから5億円改善させる



バスの運行経費は102億円、地下鉄の運行経費は112億円となり、最終年度の目標額に向けて運行経費の削減に努めた。

(3) 平成30年度の主な取り組み状況

1	安全でお客様に信頼される公共交通を目指す	(1) 安全性の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 西神・山手線への新造車両導入(H31.2) ● 海岸線各駅の防犯カメラ更新・整備 ● 運輸安全マネジメントに基づく内部監査の実施
		(2) 利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 案内標識の多言語化(4か国語 六甲ケーブル下、摩耶ケーブル下等) ● 新長田駅サインの4か国語化(H30.4)
		(3) 快適性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● バス停上屋13か所、ベンチ34か所設置
		(4) お客様のニーズに応じた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 市バスOD調査の実施(H30.10) ● ICカード利用データ等を用いた乗客者数の分析 ● 市バス均一区間での乗車方法の変更を検討(2タッチ方式化)
		(5) 質の高いサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様満足度調査(H30.12~H31.1) ● 現場職員を主な対象とした外国語(英語・中国語)研修を実施 ● 三宮駅、新神戸駅にタブレット端末を利用したクラウド通訳の導入(H30.6)
2	公共交通として神戸のまちづくりや地域社会に貢献する	(6) 総合交通体系における取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 地下鉄海岸線中学生以下無料化社会実験の継続 ● U-15定期券の販売継続 ● 地域密着型バス路線の終発延長(37系統) ● 「神戸市地域公共交通活性化協議会」(事務局・住宅都市局)等に参画
		(7) 人にやさしい公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 西神・山手線三宮駅西コンコースのエレベーター設置(H30.12) ● 西神・山手線新神戸駅改札内下りエスカレーター設計業務開始(H30.6) ● バス停の点字ブロック整備 ● 市バスの乗務員研修や添乗調査の実施 ● 西神・山手線への新造車両導入(再掲)
		(8) 環境にやさしい公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅舎照明(西神南駅)のLED化 ● クリーンディーゼルバス等環境にやさしいバスによる運行の継続
		(9) 地域との協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通局沿線NAVIやSNSを活用した沿線地域のイベント等の情報発信 ● 地下鉄沿線の幼稚園・保育所との連携(「たなばた列車」の運行) ● スポーツチーム(ヴィッセル神戸、神戸製鋼コベルコスティーラーズ)と連携したエコショッピングの実施
3	「市民の足」であり続けるために、経営基盤を強化する	(10) 収益力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント等の実施、集客イベント等ニーズに対応した臨時便の運行 ・光る絵本列車の運行 ・おもちゃ箱列車イベントの実施 ・市バス周遊コースの企画(「八社めぐり」、「恋愛パワースポットめぐり」等)の継続 ・ノエビアスタジアム神戸利用促進事業の実施 ・ヴィッセル神戸の試合時の臨時便の運行など ● 駅ナカビジネスの推進、広告事業の拡大 ・駅空店舗の活用(妙法寺駅、三宮・花時計前駅) ・新長田駅にATM増設 ● イオンモール神戸南との連携 ・交通系ICカードを利用したポイント制度の運用 ● 交通局所有の資産の有効活用 ・資産の売却(妙法寺変電所跡地等)
		(11) 経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ● 人件費の抑制 ・交通局採用職員の給与体系の見直し ・市バス営業所管理委託、地下鉄駅業務委託の継続 ・市バス路線の一部委託 ● 需要に応じた路線・ダイヤの見直し ・新設 : 41系統(西神南駅前~サイエンスパーク~サイエンスパーク南~西神南駅前) ・延伸 : 39系統(阪神御影~鴨子ヶ原⇒一部を東灘区役所、住吉東町1丁目方面へ延伸)等 ・減便 : 4系統(神戸駅前~大日丘住宅前~神戸駅前)等 ・共同路線化: 24系統(西神中央駅前~狩場台~西神中央駅前)等 ・学校等への直行便の運行(16系統等)
		(12) 公営交通のあるべき姿を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ● 「神戸市地域公共交通活性化協議会」(事務局・住宅都市局)等に参画(再掲)

V 参考資料

バス路線別収支の状況

市バスは、1日約18万人のお客様にご利用いただいております。「市民の足」としての役割を果たしている。しかし、市バス路線の中には、採算をとることが難しい路線もあり、これらの路線を維持していくためには、より多くのお客様にご利用いただく必要がある。

そこで交通局では、市民の皆様により市バスの現状を知っていただくため、市バスの路線別の経営状況を公表している。

(1) 路線別経営状況の指標

① 営業係数

100円の収入を得るために、費用がどれだけかかっているかを示す数値。この数値が小さいほど営業効率がよい（採算がとれている）ことになる。例えば、「営業係数150」は、100円の収入を得るために150円の費用がかかっていることを示す。

② 収支差

バス車内に搭載している料金箱から得られたデータや市バス交通調査結果等から推計した路線別の乗車料収入等から、運行計画に基づき算定した系統別走行キロおよび乗務時分等の比率により推計した経費を差し引いた額。

③ 乗車人数（1日あたり）

路線別の乗車料収入から推計した年間の乗車人数を、1日あたりに平均している。

④ 運行本数（1日あたり）

平日1日あたりの運行本数を掲載している。

(2) 営業係数の状況

○ 営業係数

28年度	29年度	30年度	R1年度（予算）
107	105	105	

○ 路線別

	黒字 (23路線)	赤字 (61路線)
28年度（84路線）		
29年度（84路線）	黒字 (24路線)	赤字 (60路線)
30年度（85路線）	黒字 (24路線)	赤字 (61路線)

※28年度より灘南北を102・103系統に分割。

< 黒字路線 >

28年度（23路線）	2・16・19・32・36・51・53・54・55・56・58・59・64・70・73・76・77・78・83・92・106・125・171
29年度（24路線）	2・11・16・19・36・50・51・53・54・55・56・58・59・64・70・73・75・76・77・78・83・92・125・171
30年度（24路線）	2・16・19・23・32・36・51・53・54・55・56・58・59・64・66・70・73・75・76・77・78・83・92・125

○平成30年度 路線別営業成績

系統	区 間			営業係数	収支差 (百万円)	乗車人数/日	運行本数/日
2	阪急六甲道	—	元町1社	89	105	17,924	366
3	吉田町1	(循環)	名倉町	133	△88	5,488	120
4	神戸駅前	(循環)	大日丘住宅前	114	△47	6,837	97
5	新長田駅前	(循環)	妙法寺・ 若草町	127	△43	3,080	66
6	松原通5	(循環)	兵庫駅前	176	△19	496	20
7	市民福祉交流 センター前	—	神戸駅前	108	△44	10,520	216
9	吉田町1	—	神戸駅前	120	△21	2,052	67
10	須磨水族園	(循環)	駒ヶ林町	435	△41	245	20
11	神戸駅前	—	板宿	103	△9	6,755	164
13	兵庫駅前	(循環)	新長田駅前	163	△21	637	13
15	名谷駅前	—	青山台	138	△16	897	33
16	阪神御影	—	六甲ケーブル下	82	95	9,890	289
17	二葉町	—	しあわせの村	164	△61	1,870	55
18	三宮駅ターミナル前	(摩耶ケーブル 下)	J R 六甲道	126	△23	1,639	42
19	阪神御影	(循環)	鴨子ヶ原	76	43	3,495	65
21	西神中央駅前	— (美賀多台3)	西体育館	106	△3	834	48
22	西神中央駅前	(循環) (春日台)	西体育館 西神中央駅前	106	△9	2,894	124
23	西神中央駅前	(循環)	西神工業会館	98	0	272	12
24	西神中央駅前	(循環)	狩場台5	127	△15	1,067	66
26	J R 六甲道駅	(循環)	六甲ケーブル下	139	△9	416	13
28	西神中央駅前	(循環) (櫻野台)	西体育館 西神中央駅前	102	△2	2,239	108
29	三宮駅ターミナル前	(循環) (日赤病院前)	摩耶埠頭	136	△33	1,723	58
30	J R 甲南山手 (JR本山駅前)	—	深江浜町	125	△5	361	31
31	J R 甲南山手	—	渦森台	139	△35	1,667	85
32	J R 六甲道	(循環)	御影山手	95	3	1,026	34
33	J R 甲南山手	(循環)	阪神御影南口	181	△18	382	13
34	魚崎車庫前 (魚崎浜町)	—	J R 甲南山手	171	△33	849	71
35	魚崎車庫前 (魚崎浜町)	(循環)	阪神御影南口	188	△36	775	33
36	阪神御影	—	鶴甲団地	75	121	9,356	240

○平成30年度 路線別営業成績

系統	区 間		営業係数	収支差 (百万円)	乗車人数/日	運行本数/日	
37	J R 甲 南 山 手	(循環)	阪 急 御 影	201	△ 33	565	14
38	阪 神 御 影	—	渦 森 台	103	△ 5	3,601	139
39	阪 神 御 影	(循環) (住吉駅前)	鴨 子 ケ 原	113	△ 9	1,303	27
40	神 戸 駅 前	(循環)	大 日 丘 住 宅 前	208	△ 31	565	12
41	西 神 南 駅 前	(循環)	サ イ エ ン ス パ イ ー ス	274	△ 9	111	28
43	サンシャインワー フ	(循環)	JR 本 山 駅 前	483	△ 22	99	17
45	魚 崎 車 庫 前	—	阪 神 御 影 南 口	809	△ 21	53	16
46	西 神 南 駅 前	(循環)	ハ イ テ ク パ ー ク	105	△ 4	1,974	64
47	西 神 南 駅 前	(循環)	井 吹 台 西 町	110	△ 4	723	38
50	朝 霧 駅 前	—	学 園 都 市 駅 前	103	△ 2	1,157	37
51	舞 子 駅 前	—	県 商 前	91	6	1,236	50
52	舞 子 駅 前	—	朝 霧 駅 前	107	△ 3	763	30
53	舞 子 駅 前	(学が丘)	学 園 都 市 駅 前	82	62	6,860	164
54	舞 子 駅 前	(多聞台)	学 園 都 市 駅 前	92	16	4,031	104
55	朝 霧 駅 前	—	伊 川 谷 高 校 前	62	20	994	42
56	学 園 都 市 駅 前	(循環)	学 園 緑 が 丘	79	8	731	27
57	垂 水 東 口	(循環)	青 山 台	132	△ 4	198	6
58	朝 霧 駅 前	—	伊 川 谷 駅 前	79	11	1,008	27
59	垂 水 駅	—	舞 子 駅 前	73	10	560	18
64	三 宮 駅 ターミナル前	—	神 戸 北 町	88	107	8,939	258
65	神 戸 駅 前	—	ひ よ ど り 台	132	△ 51	3,267	109
66	貿 易 セ ン タ ー 前	—	し あ わ せ の 村	99	2	2,847	85
70	名 谷 駅 前	—	白 川 台	76	35	3,037	173
71	須 磨 一 の 谷	—	北 須 磨 団 地	192	△ 18	399	22
72	須 磨 一 の 谷	(循環)	多 井 畑 厄 神	175	△ 38	922	36
73	名 谷 駅 前	—	妙 法 寺 駅 前	82	49	5,227	184
74	名 谷 駅 前	—	柏 台	164	△ 19	575	26
75	須 磨 一 の 谷	—	妙 法 寺 駅 前	86	46	6,641	169
76	名 谷 駅 前	(循環)	神 の 谷	61	63	3,073	102
77	名 谷 駅 前	(循環)	白 川 台 4	63	64	3,353	105

○平成30年度 路線別営業成績

系統	区 間			営業係数	収支差 (百万円)	乗車人数/日	運行本数/日
78	名 谷 駅 前	(循環)	南 落 合 4	96	2	1,174	70
79	名 谷 駅 前	—	東 白 川 台 東 白 川 北 通 り	111	△ 6	1,121	71
80	高 尾 台	(循環)	新 長 田 駅 前	449	△ 24	125	11
81	須 磨 一 の 谷	(循環)	新 長 田 駅 前	214	△ 63	1,135	49
83	名 谷 駅 前	(循環)	北 落 合 5 ・ 6 丁 目	92	4	783	20
84	名 谷 駅 前	(循環)	若 草 小 学 校 前	128	△ 4	270	10
87	妙 法 寺 駅 前	—	ひ よ ど り 台	156	△ 15	531	33
88	妙 法 寺 駅 前	(循環)	柏 台	141	△ 17	868	27
90	石 屋 川 車 庫 前	—	中 突 堤 中 央 タ ー ミ ナ ル	210	△ 18	308	12
92	石 屋 川 車 庫 前	—	元 町 1 三 宮 神 社	92	36	8,856	216
95	神 戸 駅 前	(循環)	新 開 地	311	△ 61	580	29
96	神 戸 駅 前	(循環)	七 宮 町	299	△ 58	597	25
100	J R 六 甲 道	(循環)	灘 の 浜 東	142	△ 11	470	11
101	三 宮 駅 ターミナル前	(循環)	日 赤 病 院 前 第 五 突 堤	192	△ 17	324	20
102	J R 六 甲 道	(循環)	摩 耶 ケーブル下	296	△ 40	378	13
103	J R 六 甲 道	(循環)	将 軍 通	384	△ 12	87	6
106	JR 六 甲 道	—	六 甲 ケーブル下	117	△ 2	252	14
110	神 戸 駅 前	— (板宿)	J R 鷹 取 駅	125	△ 11	933	24
111	箕 谷 駅 前	—	衝 原	529	△ 56	246	49
112	神 戸 駅 前	— (前池橋)	J R 鷹 取 駅	126	△ 13	914	20
120	名 谷 駅 前	—	し あ わ せ の 村	166	△ 34	886	42
121	学 園 都 市 駅 前	(循環)	西 部 障 害 者 センター	202	△ 4	67	3
125	妙 法 寺 駅 前	(循環)	若 草 町	85	5	706	28
161	学 園 都 市 駅 前	(循環)	小 東 台 西	141	△ 8	401	17
171	垂 水 駅	—	学 園 都 市 駅 前	101	0	584	22
180	三 宮 駅 ターミナル前	(急行)	六 甲 ケーブル下	333	△ 10	147	12
山25	三 宮 駅 前	—	森 林 植 物 園 前	136	△ 4	367	22
合計				105	△ 476	183,229	5,574

※運行本数は平日。ただし25系統は4～11月の土日祝のみ運行。

〔営業係数ベスト10〕

順位	系統	区 間	収益 (百万円)	費用 (百万円)	収支差 (百万円)	営業 係数	29年度 順位
1	76	名 谷 駅 前 (循環) 神 の 谷	161	98	63	61	2
2	55	朝 霧 駅 前 — 伊 川 谷 高 校 前	54	34	20	62	1
3	77	名 谷 駅 前 (循環) 白 川 台 4	173	110	64	63	3
4	59	垂 水 駅 — 舞 子 駅 前	35	25	10	73	4
5	36	阪 神 御 影 — 鶴 甲 団 地	483	362	121	75	6
6	19	阪 神 御 影 (循環) 鴨 子 ケ 原	178	135	43	76	8
7	70	名 谷 駅 前 — 白 川 台	146	112	35	76	5
8	58	朝 霧 駅 前 — 伊 川 谷 駅 前	52	41	11	79	11
9	56	学 園 都 市 駅 前 (循環) 学 園 緑 が 丘	37	29	8	79	14
10	73	名 谷 駅 前 — 妙 法 寺 駅 前	268	218	49	82	12

〔営業係数ワースト10〕

順位	系統	区 間	収益 (百万円)	費用 (百万円)	収支差 (百万円)	営業 係数	29年度 順位
1	45	魚 崎 車 庫 前 — 阪 神 御 影 南 口	3	24	▲21	809	1
2	111	箕 谷 駅 前 — 衝 原	13	69	▲56	529	4
3	43	サンシャインワー フ (循環) JR 本 山 駅 前	6	28	▲22	483	3
4	80	高 尾 台 (循環) 新 長 田 駅 前	7	30	▲24	449	2
5	10	須 磨 水 族 園 (循環) 駒 ケ 林 町	12	53	▲41	435	5
6	103	J R 六 甲 道 (循環) 将 軍 通	4	17	▲12	384	6
7	180	三 宮 駅 ターミナル前 (急行) 六 甲 ケーブル下	4	14	▲10	333	-
8	95	神 戸 駅 前 (循環) 新 開 地	29	89	▲61	311	7
9	96	神 戸 駅 前 (循環) 七 宮 町	29	87	▲58	299	8
10	102	J R 六 甲 道 (循環) 摩 耶 ケーブル下	20	60	▲40	296	9

〔営業収支ベスト10〕

順位	系統	区 間	収益 (百万円)	費用 (百万円)	営業 係数	収支差 (百万円)	29年度 順位
1	36	阪 神 御 影 — 鶴 甲 団 地	483	362	75	121	3
2	64	三 宮 駅 ターミナル前 — 神 戸 北 町	926	819	88	107	2
3	2	阪 急 六 甲 — 元 町 1 JR 六 甲 道 — 三 宮 神 社	919	814	89	105	1
4	16	阪 神 御 影 — 六 甲 ケーブル下	517	422	82	95	4
5	77	名 谷 駅 前 (循環) 白 川 台 4	173	110	63	64	6
6	76	名 谷 駅 前 (循環) 神 の 谷	161	98	61	63	7
7	53	舞 子 駅 前 <small>—(学が丘)</small> 学 園 都 市 駅 前	352	290	82	62	5
8	73	名 谷 駅 前 — 妙 法 寺 駅 前	268	218	82	49	8
9	75	須 磨 一 の 谷 — 妙 法 寺 駅 前	337	291	86	46	11
10	19	阪 神 御 影 (循環) 鴨 子 ケ 原	178	135	76	43	10

〔営業収支ワースト10〕

順位	系統	区 間	収益 (百万円)	費用 (百万円)	営業 係数	収支差 (百万円)	29年度 順位
1	3	吉 田 町 1 (循環) 名 倉 町	266	354	133	▲88	1
2	81	須 磨 一 の 谷 (循環) 新 長 田 駅 前	55	118	214	▲63	4
3	17	二 葉 町 — しあわせの村	95	156	164	▲61	3
4	95	神 戸 駅 前 (循環) 新 開 地	29	89	311	▲61	5
5	96	神 戸 駅 前 (循環) 七 宮 町	29	87	299	▲58	6
6	111	箕 谷 駅 前 — 衝 原	13	69	529	▲56	7
7	65	神 戸 駅 前 — ひよどり台	163	214	132	▲51	8
8	4	神 戸 駅 前 (循環) 大 日 丘 住 宅 前	328	376	114	▲47	2
9	7	市 民 福 祉 交 流 セ ン ター 前 — 神 戸 駅 前	530	573	108	▲44	10
10	5	新 長 田 駅 前 (循環) 妙 法 寺 町 若 草 町	158	200	127	▲43	11

乗客数の推移

(単位:人、%)

	バ ス		地 下 鉄	
	1日当たり 乗客数	対前年度 増減率(%)	1日当たり 乗客数	対前年度 増減率(%)
11 年度	268,206	△4.1		261,578 △2.5
12 年度	262,491	△2.1		252,154 △3.6
13 年度	246,802	△6.0	西神・山手	275,975 9.4
			海岸	34,446 皆増
14 年度	237,521	△3.8	西神・山手	273,560 △0.9
			海岸	36,500 6.0
15 年度	232,207	△2.2	西神・山手	268,380 △1.9
			海岸	38,548 5.6
16 年度	227,795	△1.9	西神・山手	263,663 △1.8
			海岸	38,767 0.6
17 年度	216,027	△5.2	西神・山手	264,097 0.2
			海岸	39,004 0.6
18 年度	225,481	4.4	西神・山手	266,312 0.8
			海岸	40,174 3.0
19 年度	225,252	△0.1	西神・山手	267,257 0.4
			海岸	40,262 0.2
20 年度	211,176	△6.2	西神・山手	267,787 0.2
			海岸	41,660 3.5
21 年度	198,540	△6.0	西神・山手	261,606 △2.3
			海岸	42,652 2.4
22 年度	194,608	△2.0	西神・山手	261,587 △0.0
			海岸	42,670 0.0
23 年度	192,034	△1.3	西神・山手	259,293 △0.9
			海岸	42,396 △0.6
24 年度	191,850	△0.1	西神・山手	260,740 0.6
			海岸	42,894 1.2
25 年度	189,337	△1.3	西神・山手	260,737 △0.0
			海岸	43,016 0.3
26 年度	189,286	△0.1	西神・山手	259,863 △0.3
			海岸	43,520 1.2
27 年度	189,564	0.1	西神・山手	262,329 0.9
			海岸	44,456 2.2
28 年度	187,255	△1.2	西神・山手	261,495 0.6
			海岸	45,451 4.4
29 年度	186,763	△0.3	西神・山手	263,576 0.8
			海岸	48,643 7.0
(決算) 30 年度	183,230	△1.9	西神・山手	263,381 △0.1
			海岸	50,236 3.3
(予算) 31 年度	183,885	0.4	西神・山手	263,906 0.2
			海岸	51,602 2.7

※バスの1日当たり乗客数のピークは昭和46年度で、398,665人である。

決算状況の推移(10年間)

年 度		21	22	23	24	25
自動車	営業損益	△1,551	△1,349	△975	△735	△1,288
	経常損益	182	146	151	317	△337
	純損益	219	146	151	207	△28
	累積損益	365	500	643	842	814
	累積資金過不足	△1,242	△1,088	△883	△652	△794
高速鉄道	営業損益	1,132	1,551	1,700	1,841	2,696
	西神・山手	5,424	5,750	5,844	5,948	6,721
	海岸	△4,292	△4,199	△4,144	△4,107	△4,025
	経常損益	△1,329	△631	△778	△712	163
	西神・山手	4,807	5,433	5,247	5,280	6,014
	海岸	△6,136	△6,064	△6,025	△5,992	△5,851
	純損益	△1,329	△631	△778	△712	182
	西神・山手	4,807	5,433	5,247	5,280	6,033
	海岸	△6,136	△6,064	△6,025	△5,992	△5,851
	累積損益	△120,966	△121,597	△122,375	△123,087	△122,905
西神・山手	△50,064	△44,631	△39,384	△34,104	△28,071	
海岸	△70,902	△76,966	△82,991	△88,983	△94,834	
道	累積資金過不足	△9,040	△8,968	△8,883	△8,791	△6,918
	西神・山手	△5,467	△3,313	△1,016	1,642	8,463
	海岸	△3,573	△5,655	△7,867	△10,433	△15,381

年 度		26	27	28	29	30
自動車	営業損益	△928	△406	△727	△541	△476
	経常損益	△240	89	△301	△209	△27
	純損益	△3,835	284	△301	△135	△27
	累積損益	542	826	525	390	363
	累積資金過不足	△1,197	△1,610	△1,608	△1,714	△1,824
高速鉄道	営業損益	394	1,373	694	779	1,488
	西神・山手	5,895	6,503	5,722	5,438	5,816
	海岸	△5,501	△5,130	△5,028	△4,659	△4,328
	経常損益	813	2,176	1,768	1,682	2,257
	西神・山手	5,686	6,748	6,243	5,966	6,029
	海岸	△4,873	△4,572	△4,475	△4,284	△3,772
	純損益	△5,129	2,176	1,764	1,682	2,257
	西神・山手	1,102	6,748	6,243	5,966	6,029
	海岸	△6,231	△4,572	△4,479	△4,284	△3,772
	累積損益	△82,592	△80,416	△78,652	△76,970	△74,713
西神・山手	413	7,161	13,404	19,370	25,399	
海岸	△83,005	△87,577	△92,056	△96,340	△100,112	
道	累積資金過不足	△4,862	△1,891	△6	1,729	4,654
	西神・山手	14,230	21,107	28,346	35,287	43,168
	海岸	△19,092	△22,998	△28,352	△33,558	△38,514

(バス)

- 過去の累積欠損金のピークは、昭和55年度の△17,744百万円。平成10年度に△18,168百万円となって以降、更新していたが、平成19年度に交通事業基金32,800百万円を取り崩し資本剰余金として受け入れ、平成20年度にそのうちの30,665百万円を取り崩し欠損金に充て、累積欠損金の解消を図った。
 - 減積立金について、平成21年度に11百万円、平成22年度に8百万円、平成23年度に8百万円を積み立てた。
 - 近年の黒字決算は、昭和56年度～平成2年度(735百万円)及び平成4年度(358百万円)。その後平成18年度に黒字転換し、平成24年度まで黒字であったが、平成25年度は8年ぶりの赤字となった。
 - 26年度は会計制度の見直しがあり、退職給付引当金等による特別損失を3,894百万円計上している結果、繰越欠損金が発生している。
 - 27年度は3年ぶりの黒字。累積資金不足は拡大した。
 - 28年度は301百万円、29年度は135百万円、30年度は27百万円の純損失となり3年連続の赤字を計上。
- (地下鉄)
- 西神・山手線では開業の翌年度(昭和52年度)以降、経常損益、純損益とも赤字であったが、平成15年度に黒字転換した。
 - 海岸線では開業年度(平成13年度)以降、経常損益、純損益とも赤字である。
 - 全線では西神・山手線の開業の翌年度(昭和52年度)以降、経常損益、純損益とも赤字であった。
 - 営業損益は、平成2年度に黒字転換したが、海岸線の開業に伴い平成13年度に赤字転換した。
 - その後、海岸線の減価償却の進行に伴い、平成18年度に再び黒字転換した。
 - 平成15年度に資本剰余金33,532百万円を取り崩し欠損金に充てた(西神・山手線)。
 - 平成25年度に両線開業以来初めて、全線で経常損益及び純損益が黒字となった。
 - 平成26年度は会計制度見直しに伴う特別損失計上(西神・山手4,584百万円、海岸1,358百万円)のため、純損失を計上。また、資本剰余金45,442百万円を取り崩し、欠損金に充てた。(西神・山手27,382百万円、海岸18,060百万円)
 - 平成27年度は経常損益、純損益ともに、過去最高益を計上。(昭和51年度の西神・山手線開業年度を除く)
 - 平成28・29年度は純損益について前年度よりも悪化したものの引き続き黒字を計上。
 - 平成30年度は経常損益、純損益ともに、27年度の過去最高益を更新。(昭和51年度の西神・山手線開業年度を除く)

一般会計からの繰入金の状況

○ 自動車事業会計

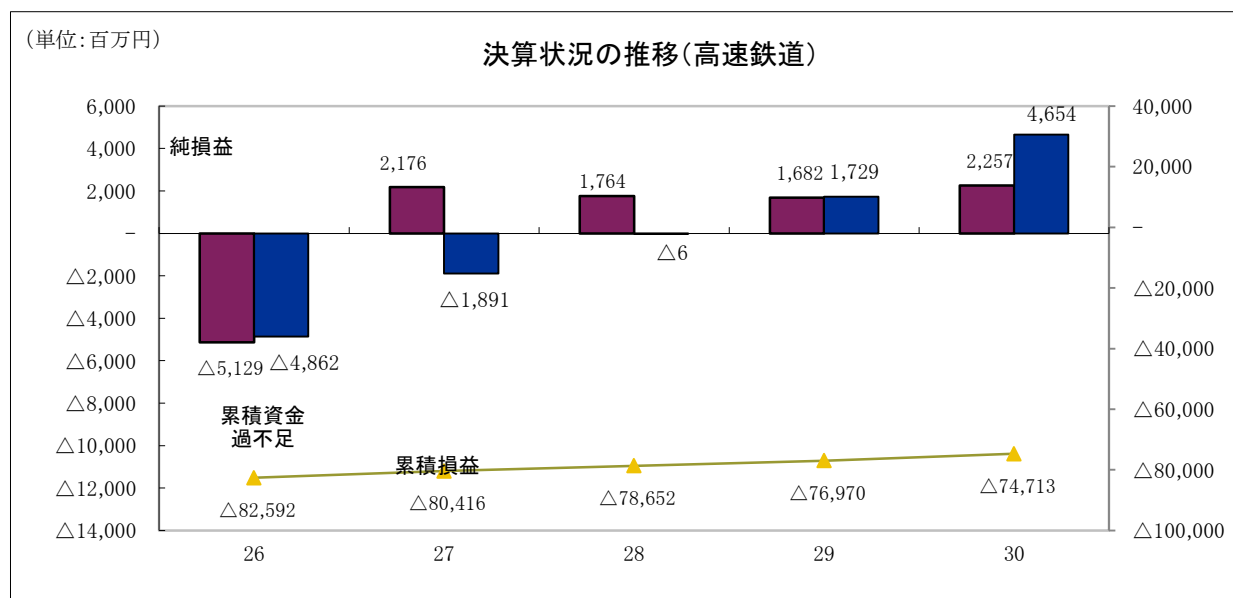
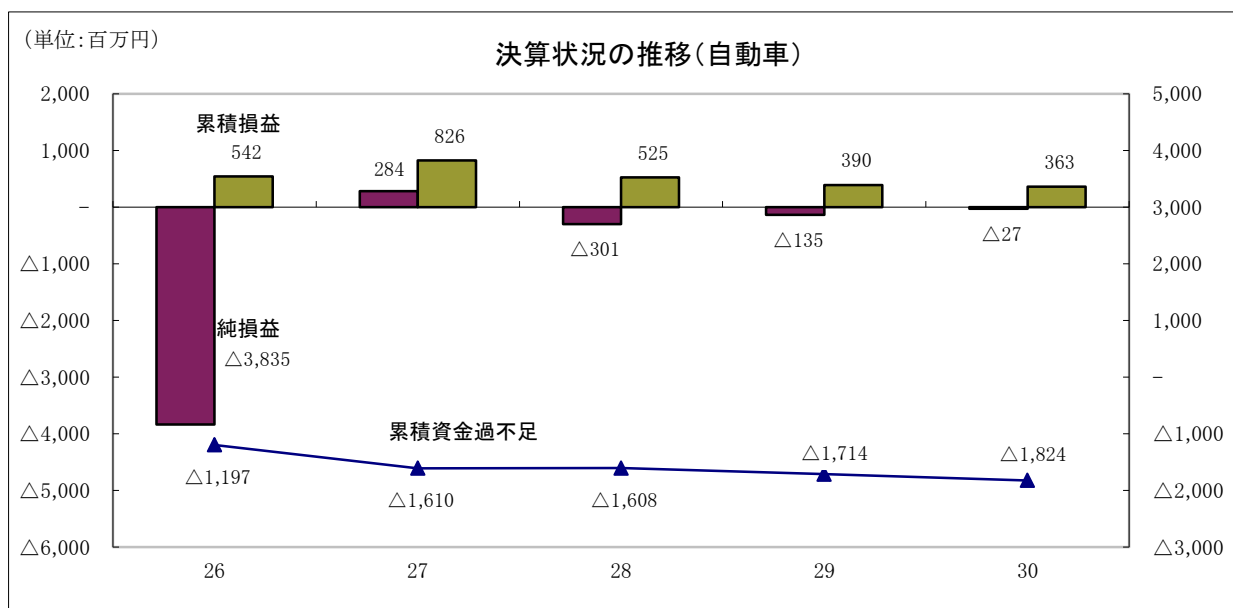
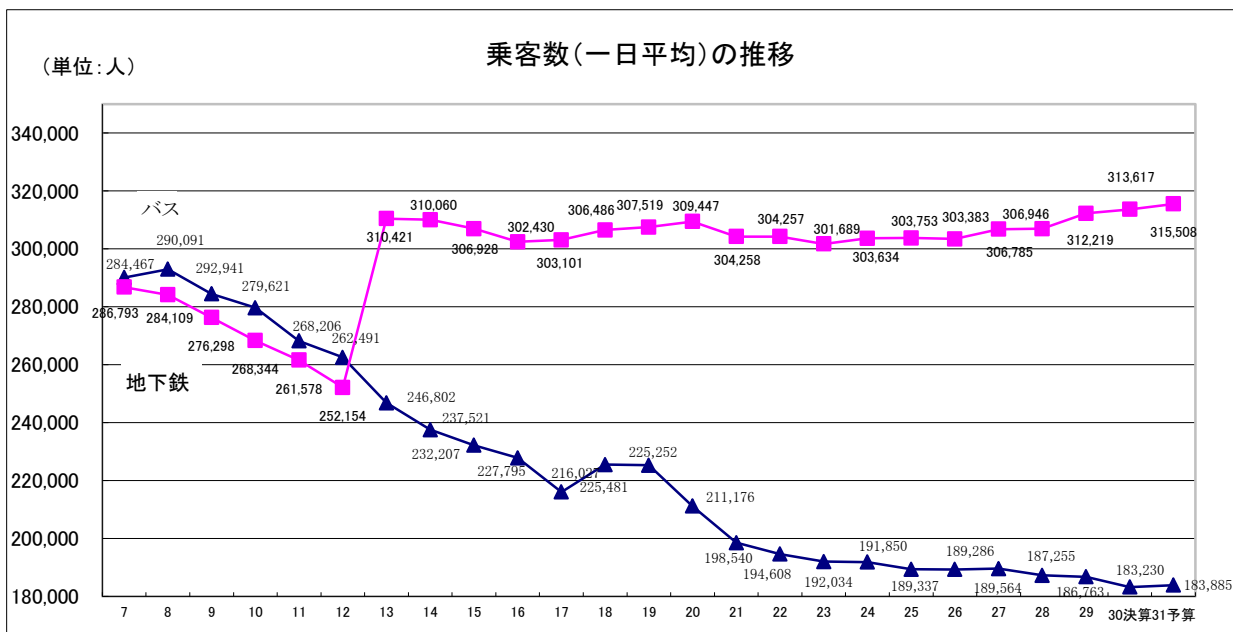
(単位:百万円)

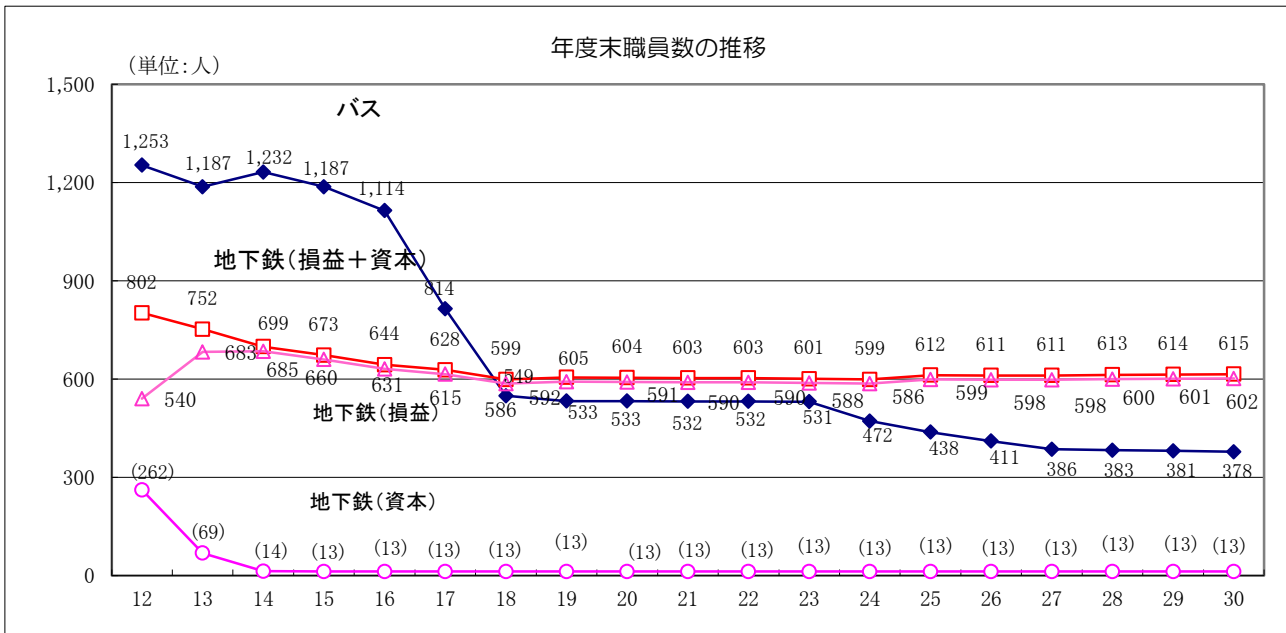
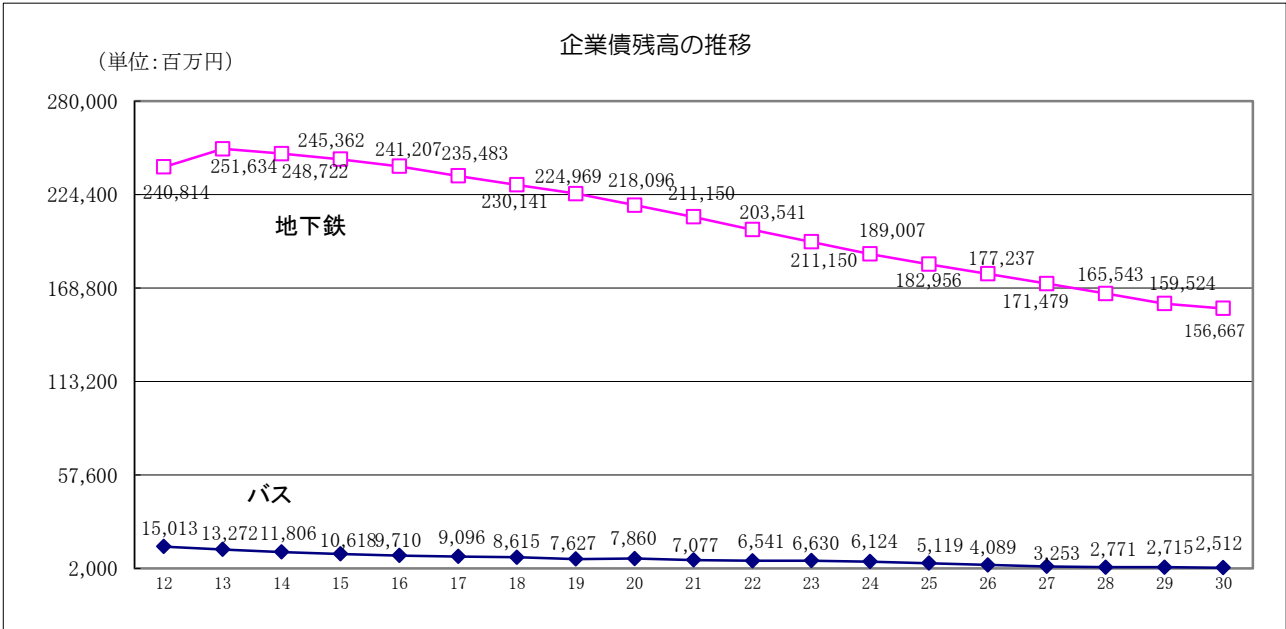
	充当項目	平成30年度	平成29年度	増△減
収益的 収入	基礎年金拠出金に係る公的負担等	169	83	86
	経営改善促進補助金	370	318	52
	計	539	401	138
合計		539	401	138

○ 高速鉄道事業会計

(単位:百万円)

	充当項目	平成30年度	平成29年度	増△減
収益的 収入	基礎年金拠出金に係る公的負担等	227	224	3
	企業債の利払い等	1,119	1,454	△ 335
	計	1,346	1,678	△ 332
資本的 収入	出資金	1,153	909	244
	企業債の元金償還等	2,595	2,610	△ 15
	計	3,748	3,519	229
合計		5,094	5,197	△ 103





VI 平成30年度決算に基づく資金不足比率の報告について（交通局関係分）

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定により，平成30年度決算に基づく資金不足比率を次のとおり報告する。

企業会計の名称	資金不足比率（％）
自動車事業会計	18.3％
高速鉄道事業会計	—

本市に適用される経営健全化基準：20.0％